

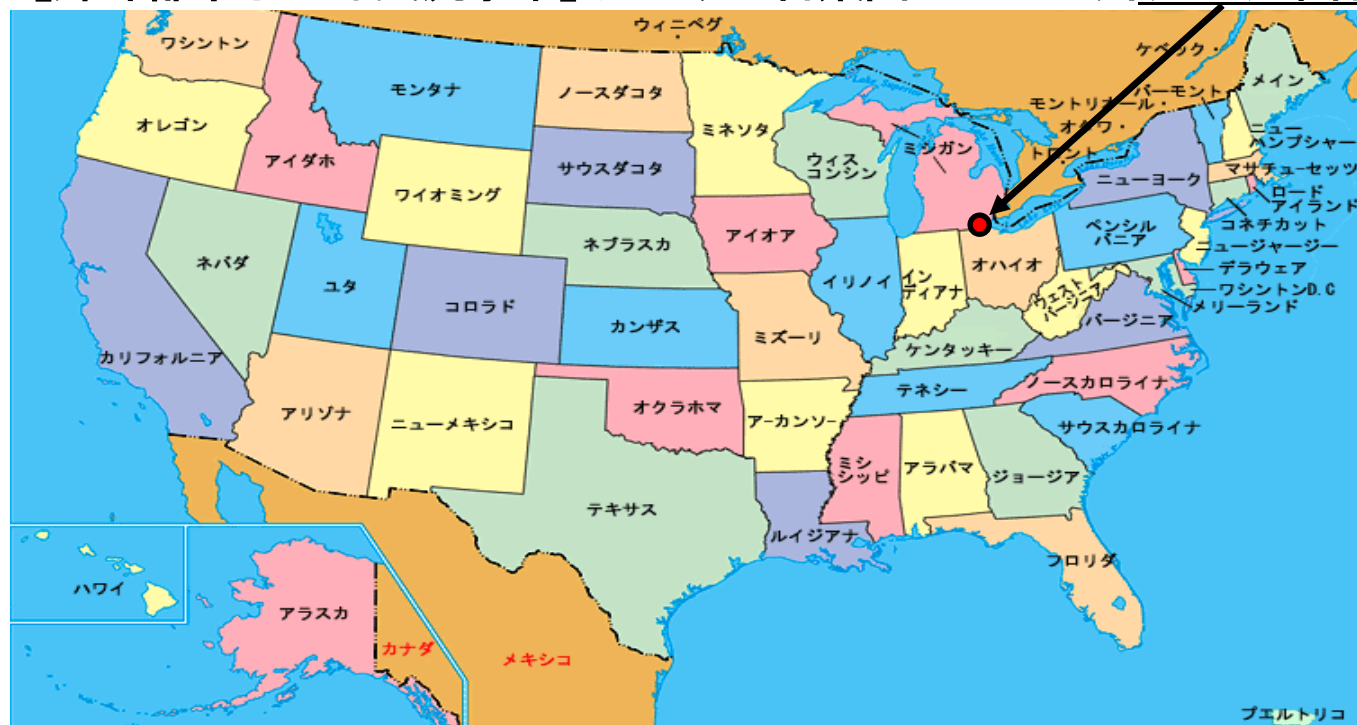
平成 30 年度 燕市 姉妹都市子ども交流事業・海外派遣事業

# 報 告 書

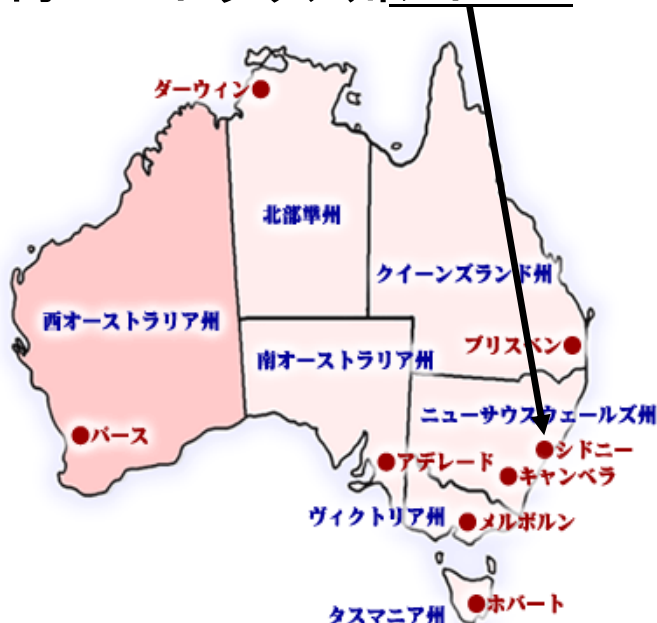
## Thanks for these precious 9days and 12days



## 【姉妹都市子ども交流事業】アメリカ合衆国ミシガン州ダンディ村



## 【親善大使海外派遣事業】 オーストラリア連邦 西オーストラリア州シドニー



## シンガポール共和国 シンガポール市



### 表紙写真説明

- 上段左： シドニー現地小学校でのPR活動
- 上段右： シンガポールの新潟県人会交流会でのPR活動
- 下段左： 出発前のダンディ村使節団（シカゴ空港）
- 下段右： ウェルカムパーティー（使節団とホストファミリー）

## 平成 30 年度燕市姉妹都市子ども交流事業・海外派遣事業報告書 目次

はじめに	燕市長 鈴木 力 . . . . .	3
------	--------------------	---

ごあいさつ	燕市教育長 仲野 孝 . . . . .	4
-------	----------------------	---

### 【Jack & Betty プロジェクト海外派遣事業】

海外派遣事業日程 . . . . .	5
--------------------	---

親善大使活動報告 . . . . .	6
--------------------	---

親善大使体験報告 . . . . .	7
--------------------	---

親善大使アンケート . . . . .	43
---------------------	----

広報つばめ 平成 30 年 10 月 1 日号掲載記事 . . . . .	46
---------------------------------------	----

海外派遣事業研修参加者、引率者報告 . . . . .	48
-----------------------------	----

### 【姉妹都市子ども交流事業】

ダンディ使節団滞在日程 . . . . .	51
-----------------------	----

ホストファミリー活動報告 . . . . .	53
------------------------	----

ダンディ村からの感謝のメッセージ . . . . .	58
----------------------------	----

体験活動協力者のコメント . . . . .	59
------------------------	----

はじめに

## 燕市長 鈴木 力



姉妹都市こども交流事業として、平成 30 年 7 月 18 日から 9 日間の日程で、アメリカ合衆国ミシガン州ダンディ村から、使節団として 4 人の中学生を燕市にお招きしました。

滞在期間中は、市内の学校を訪問し児童生徒と交流しました。松長小学校では児童が準備した英語のプレゼンテーションを楽しみ、吉田中学校では部活動県大会激励会の全校応援を見て驚き、燕中等教育学校や J & B 教室では、英語で生徒とコミュニケーションを行うなどして親睦を深めました。

書道体験や仏道体験、キャンドル作りなどをとおして、燕市の歴史や伝統、文化などを学ぶとともに、日本文化を体験できたものと思います。

また、ホームステイをお引き受けいただいた御家族との絆は、特に深いものとなったことと思います。ホストファミリーとの別れの涙は、充実した日々を過ごし、たくさんの思い出を作ってくれたのだと確信しました。滞在期間中、御協力をいただきましたホストファミリーの皆様、関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

また、6 年目を迎えた Jack & Betty プロジェクトの海外派遣事業では、6 月の英語スピーチコンテストで選出された 12 人の親善大使を、8 月にオーストラリアのシドニーとシンガポールに派遣しました。

シドニーでは、ホームステイをしながら現地の学校に通い、現地の中学生と一緒にオーストラリアの自然や環境、文化の違いを学びながら、派遣の目的である「燕市の PR 活動」をしっかりと行い、相互交流を図ることができました。また、シンガポールでは、新潟県人会の皆様と交流し、シンガポールの地理や歴史、文化等を教えていただくとともに、英語を身に付けておくことの大切さを学ぶことができました。

これら、2 つの事業は、いずれも燕市の関係者からの多大なる御支援と御理解、そして、派遣先の受入れがあって実現できるものです。本事業に御協力をいただいている事業者、企業の皆様に心から感謝申し上げます。

今後も、燕市の将来を担い、国際社会で活躍できる人材の育成に力を注いでまいります。また、国際交流事業を通して、市民の皆様の国際理解が深まるとともに、魅力ある燕市を世界に発信することができるよう、なお、一層の充実を図っていきたいと考えております。引き続き御理解と御協力をお願い申し上げます。



ごあいさつ

## 燕市教育長 仲野 孝



今年度5月に、モンゴル国のパラアーチェリー選手団が燕市で合宿を行いました。いよいよ2020年東京オリンピック・パラリンピックが近づく中、燕市教育委員会では、国際交流事業を継続し、児童生徒に対しては、限られた人数ではございますが、毎年、海外経験の機会を提供させていただき、国際感覚豊かな人材育成に取り組んでまいりました。

さて、姉妹都市子ども交流事業では、今年度は受入事業といたしまして、中学生4人、引率者1人を迎えました。また、Jack & Betty プロジェクト、親善大使海外派遣事業では、12人をオーストラリアとシンガポールに派遣いたしました。

姉妹都市子ども交流事業では、ホスト役をお引き受けいただいた方々に、心から御礼申し上げます。初めて日本で生活するダンディ村の中学生が、笑顔で過ごすことができたのは、その御家族や、事業に快く御協力いただいた市民の皆様が、温かく接してくださったからだと確信しております。今回の滞在も、燕市姉妹都市交流の一層の発展につながり、使節団の子供たちは、将来、ダンディ村と燕市を、より強く結ぶ推進役になってくれることと期待しています。

親善大使海外派遣事業では、県内各所で気温が40℃以上を記録した真夏の日本とは反対に、気温が15℃前後という少し肌寒い晩冬のオーストラリア、シドニーを訪問しました。現地の生徒たちと一緒に、授業や昼食など学校生活を体験したり、家族の一員として家庭生活を体験したりすることで、異なる生活様式、考え方などを体感できたことと思います。

帰国報告会では、ホストファミリーや現地でできた友人、海外の方々との交流をとおして、英語の力だけでなく、たくさんのことを学び、派遣事業の目的である燕市のPR活動に真剣に取り組み、改めて燕市や日本のよさを確認できたと報告を受けました。

親善大使には、これからも自分自身の目標を高くもち続け、また親善大使として、この経験を多くの人たちに伝え、学校や地域、そして様々な場面でリーダーとしても活躍してくれることを期待しております。

この国際交流事業に御協力くださった事業者の皆様、保護者、地域の皆様に心から感謝申し上げます。今後も、これらの事業の充実と発展に取り組んでまいりますので、皆様の御理解と御支援をいただきますようお願い申し上げます。

## 海外派遣事業日程

月 日	日 程	
8月14日(火)	11:31 燕三条駅出発 14:20 羽田空港到着 17:05 羽田空港出発 23:05 シンガポール空港(経由地) 到着	(機内泊)
8月15日(水)	00:45 シンガポール空港(経由地) 出発 10:25 シドニー空港到着 12:30 シドニー市内へ(昼食とオペラハウス訪問) 15:00 現地校 到着、ホストファミリーと対面	(ホームステイ)
8月16日(木)	午前 現地校にて授業開始 ムーアバンクハイスクール (英語授業: 基本、バディステューデントと対面、モーニングティーで交流、昼食、現地校生徒と授業) 午後 アクティビティー(クッキー作り)	(ホームステイ)
8月17日(金)	午前 現地校にて英語レッスン 午後 シドニーオリンピック関連施設見学と講話	(ホームステイ)
8月18日(土)	終日ホスト・ファミリーと過ごす	(ホームステイ)
8月19日(日)	終日ホスト・ファミリーと過ごす	(ホームステイ)
8月20日(月)	午前 現地校にて英語レッスン 午後 現地校の授業に参加	(ホームステイ)
8月21日(火)	午前 現地小学校訪問 リバプール パブリックスクール 9クラスでPR活動①(つばめっ子カルタ、折り紙) 午後 ウェルカムセレモニー(全校集会) PR活動②(クイズ、歌) 授業参加	(ホームステイ)
8月22日(水)	午前 現地校にて英語レッスン フェアウェルランチパーティー 午後 PR活動②(プレゼンテーション、クイズ、歌) 晩 ホストファミリーとのフェアウェルパーティー PR活動③	(ホームステイ)
8月23日(木)	07:00 現地校出発 11:00 シドニー空港出発 17:30 シンガポール空港到着、バスで市内へ(夕食) 19:30 ホテル着、ホテル周辺を散策	(ホテル泊)

8月24日（金）	<p>午前 シンガポール市内見学 マリーナ・ベイ・サンズホテル マーライオン公園 富の噴水 チャイナタウン（寺院）見学</p> <p>18:30 新潟県人会との交流、PR 活動④（プレゼン、歌） 20:30 ホテル到着</p>	（ホテル泊）
8月27日（土）	<p>05:00 ホテル出発 06:00 シンガポール空港到着、朝食 08:00 シンガポール空港出発 15:55 羽田空港到着 18:12 東京駅出発 20:00 燕三条駅到着</p>	

## 親善大使活動報告

### 1 PR活動の内容

#### （1）プレゼンテーション

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| ① 燕市の自然・地理・交通・農業 | ② 燕市の学校教育      |
| ③ 燕市の金属加工業       | ④ 燕市の観光・名所・名産品 |

#### （2）文化紹介

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| ① つばめっ子かるた（英語版） | ② 燕クイズショー        |
| ③ 折り紙           | ④ 歌（上を向いて歩こう、国歌） |

#### （3）表敬訪問

シンガポール新潟県人会

### 2 場所・対象者・期日

No.	場所	期日
(1)	リバプールパブリックスクール（延べ9クラス）	8月21日（火）
(2)	リバプールパブリックスクール（全校集会）	8月22日（水）
(3)	ムーアバンクハイスクール	8月22日（水）
(4)	新潟県人会シンガポール支部	8月24日（金）

私は燕市の親善大使としてオーストラリア、シンガポールへ行き、素晴らしい12日間を過ごすことが出来ました。オーストラリアでの9日間はホストファミリーや現地校の友達との活動をしてとても刺激的な生活を送ることが出来ました。シンガポールでは観光を通してオーストラリアとは違った東南アジアのふいんきを感じることが出来ました。これからの人生で決して忘れることのない思い出が出来ました。では、親善大使としての素晴らしい体験や思い出についてご紹介したいと思います。

私にとっては初めての海外でした。不安と緊張よりもワクワクした期待感で胸がいっぱいになりました。燕三条駅で新幹線に乗り、東京駅に着き、少しずつ海外に行く実感が湧き始めました。ついに初めての飛行機に乗りましたが、「これから空を飛ぶ」と思うと少し怖かったです。怖かったけれど、加速して「フワッ」と飛んだ瞬間、すごいなと感激しました。まずシンガポールを経由しなければならなかったためシドニーまでは16時間もかかりました。

私たちはホストファミリーに会う為、空港からシドニーの街へ向かいました。どんな人達だろうと思うと期待と同時に不安も感じました。でも、私のホストファミリーはとてもフレンドリーに笑顔で話しかけてくれました。

親善大使は現地校のムーアバンク高校に通うことになっていました。まず、バディと言われる、一緒に活動するパートナーが発表されました。私のバディは「ヒカ」でした。彼女はとてもフレンドリーで、私のことをいつも気にかけてくれました。そのおかげで彼女とはすぐに仲良くなりました。学校では、午前は英語授業で午後はヒカのクラスの授業参加か特別な活動でした。初日は、オーストラリアで有名なアンザックビスケット作りで料理を学んでいる生徒が教えてくれました。

他にもシドニーオリンピックパークへ行ったり、近くの小学校へ行ったりしました。その生徒たちとの交流会では、折り紙やかるたで楽しい時間を過ごしました。日本の授業と違い、先生は講義せず、生徒たちがお互いに教え合っていました。

休日はホストファミリーといろいろな所へ行きました。動物を見たり、散歩をしたり、卓球などの運動をしたりしました。たくさんのかたを共にすることで、より仲が深まりました。

時間はあっという間に過ぎていきました。ついに学校最終日になりました。それは、友達に別れを告げなければならないと言う事です。お別れ会の時には楽しかったことやたくさんのかたの大切な思い出を噛みしめていました。ヒカや友達と別れるのは悲しかったけれど「ありがとう、また会おうね」と言う事が出来ました。ホストファミリーへの感謝の気持ちも素直に伝えることができ、後悔はありません。

このような素晴らしい経験や、最高の思い出を作る機会を与えて下さった、たくさんのかたに感謝します。これからも国際交流を積極的に行っていきたいと思っています。また、英語をもっと流暢に話せるようになるために外国人とたくさん会話をしたいと思っています皆さんのご支援と、このような貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。



↑ホストファミリーとの休日



↑オーストラリアの伝統ゲームを友達と



I went to Australia and Singapore as a good will ambassador and had a wonderful twelve days. I had an exciting time with my host family and local friends through many kinds of activities during my nine days in Australia. In Singapore, I went sightseeing and I felt a different atmosphere from the one in Australia, I will never forget these memories for the rest of my life. Now, I would like to tell you about my great experiences and memories as a good will ambassador.

Although it was the first time for me to go abroad, I didn't feel nervous or anxious, but my heart was full of excitement instead. On the departure day, I took a Shinkansen from Tsubame-sanjo station to Tokyo station, and as I was getting closer to the airport, I began to understand the fact that I was really going abroad. At last, I got on the airplane, but I was a little afraid when I imagined that I would soon fly high up in the sky. Contrary to my expectations, I was deeply moved when I felt the speed of the airplane as it accelerated, and took off in the air. It took sixteen hours to get to Sydney because we had to stop over at Singapore first.

We headed to the city of Sydney from the airport to see our host families. I was excited and nervous at the same time to meet my host family because I was not sure what kind of people they would be. However, my host family was so friendly and talked to me with a smile.

The good will ambassadors were scheduled to attend classes at the local school, Moor Bank High School. First, my partner, called a buddy, who would work together with me was announced. My buddy was Hika. She was very friendly and gentle, and she always cared about me. Because of this, I was able to get along with her in no time. At school, I had an English class in the morning, and I either participated in Hika's class or the special activities in the afternoon. On the First day at school, students who were learning cooking taught us how to bake famous Australian Anzac biscuits.

On another occasion, I went to the Sydney Olympic Park, and the elementary school nearby. We had an exchange meeting with students there and had a good time making Origami and playing Karuta. Unlike classes in Japan. The teacher didn't give a lecture, instead the students were teaching each other in the class.

I went to various places with my host family on the weekend. By watching animals together, taking a walk together, and playing table tennis together, we got much closer to each other.

As we all know, time flies when we have fun. The last day at school had come. It meant that I had to say good-bye to my buddy, Hika and to my other friends. During the farewell party, I kept thinking back to the moments when I had a good time there, and made a lot of precious memories. Although I was so sad to say good-bye to Hika and other friends, I was proud of myself to be able to say, "Thank you" and "Let's meet again" to them. I was also able to express my gratitude to my host family, so I have no regrets.

I'm grateful to all those who gave me a chance to have such wonderful experiences and memories. I'd like to continue actively engaging in international exchange. Thank you so much for your support, and for giving me such a precious opportunity. I'll keep learning English to become able to speak English more fluently, so I'd like to talk with foreigners a lot more.

私は、燕市の親善大使として12日間オーストラリアとシンガポールへ行きました。そして、たくさんを知り、学び、感じることができました。この海外派遣事業に参加できて本当に良かったです。日本に居るときは分からなかったことも今回気づくことができました。その中の1つが家族の大切さです。私は海外へ行くため、家族と12日間はなれて過ごしました。そこで、私は改めて家族のありがたさや大切さに気づくことができました。そして、この海外派遣事業でたくさんの思い出ができました。特に、心に残っている思い出が2つあります。

1つ目は、ホストファミリーと過ごした8日間です。夕食では、ホストファミリーが作ってくれた美味しい料理を食べながら毎日はなしをしました。この時間はまるで本当の家族のように笑いあうことができとても楽しいひと時でした。

とても楽しくて時間が過ぎるのがあっという間でした。別れの日、もう会えないのだと思うと寂しい気持ちでいっぱいでした。ですが、この8日間は初めから楽しいわけではありませんでした。ホームステイの初日や2日目はホストファミリーと打ち解けることができなかったし、自分の英語が伝わらなくて何度もくじけそうになりました。ですが、3日目の夕食からは自分から積極的にはなしをしました。すると、だんだんと打ち解けることができました。やはり自分から話すことは大切なんだと思いました。とてもいい経験でした。

2つ目は、オーストラリアの学校に通った日々です。最初は私も緊張していましたが、現地校のみんなに親切にしてもらいすぐに仲良くなることができました。そして、たくさんの友達ができてうれしかったし、何よりとても楽しかったです。そして、現地校のみんなとはたくさん話しをしました。日本のことや、みんなの好きな音楽の話などをしました。1つ1つの会話や時間がとても楽しく、別れの時は、寂しい気持ちでいっぱいでした。私は、この海外派遣事業で、ここには書ききれないほどのたくさんの良い経験をしました。

私がこのような体験をすることができたのも、ホストファミリーのデイビットさんやサブリナさん、現地校のみんな、そして家族や日本の友達、先生方のおかげです。私はたくさんの方々に支えられこのような素晴らしい時間を過ごすことができました。この12日間そのものが私にとっての一生の宝物です。楽しかったです。ありがとうございました。



↑休日にホストファミリーとドライブ



↑シンガポール新潟県人会の皆さんと

Supported by a lot of people

Miki Shiobara

2<sup>nd</sup> grade Koike junior high school

I went to Australia for 12 days as a Goodwill Ambassador. And I learned and felt many things. It was really nice to be able to participate in this trip. I noticed things I didn't when I was in Japan.

One of them is the importance of family. I spent 12 days without my family when I went abroad. So, I was able to appreciate the importance of my family again. And I made lots of memories. There are two memories that are particularly special to me. The first one is the 8 days spent with my host family. At dinner, I talked with them every day while eating delicious foods they made. This time was fun because we were able to laugh like a real family. It was a lot of fun and time passed quickly. I felt lonely when I thought that I had to say goodbye to them. However, these 8 days were not fun from the beginning. On the first couple of days of the homestay, I couldn't open up to my host family, and I felt discouraged because I couldn't communicate well. But from dinner on the third evening I spoke actively. Then I was able to gradually open up. I thought that speaking up was important. It was a very good experience.

My second special memory is my experience at an Australian school. At first, I was nervous, but everyone at the school was kind, so I could get along with them. I was glad that I made many friends, and I enjoyed it more than anything. And I talked a lot to everyone. I talked about Japanese things and everyone's favorite music. Every single conversation was fun, and when we parted, we were filled with sadness.

I had such a good experience that I could not write everything here. It is because of my host family, David and Sabrina, and the local school, and my family, friends, and teachers in Japan, that I could have such experiences. Thank you very much. I was supported by a lot of people and was able to have such a wonderful time. Thank you very much. It was fun. I will treasure those 12 days for the rest of my life.

私はオーストラリアで貴重な時を過ごしました。シドニーに滞在した9日間は一生忘れないと思います。

出発前までは緊張や不安もたくさんありました。「英語で話せるのだろうか。」「ホストファミリーはどんな人なのだろう。」と思っていました。ホストファミリーと対面した時はドキドキしましたが、優しく簡単な英語で会話してくれたので「ほっ」としました。

海外で不安もあったけど、積極的に英語で質問することを心掛けました。現地の学校では、英語のレッスンがあり、先生の話を理解できるようにいつも以上に聴き取るようにしました。夜になるとホームシックになりましたが、学校へ行くと親善大使のみんなに会えたので安心して過ごすことができました。

シドニーの学校には、リセスという時間があります。20分間ぐらいのおやつタイムですがその時にはバディに友達を紹介してもらって、一緒にクッキーを楽しく食べました。また、技術と体育のテニスの授業を参観しました。日本の授業と違って、各教科の教室があったり、授業の雰囲気は違ったりして面白かったです。

土日にはホストファミリーと一緒に海へ行ったり、ショッピングして過ごしました。この2日間でホストファミリーとの距離が近くなり、気持ちも楽になりました。次の日から学校へ行くのも楽しくなり、毎日があっという間に過ぎていきました。だから、シンガポールへ行く時もホストファミリーとの別れは、とても悲しかったです。

初めての海外に滞在して分かったことが2つあります。1つ目は、家族の大切さです。約2週間離れてみて、家族の言葉の意味も考えたりして有り難さがよく分かりました。ホストファミリーの方も私の体調を気遣ってくださり、学校のことを聞いて下さって嬉しかったです。

2つ目は人とのコミュニケーションの難しさです。私が滞在している間、学校で出会ったみんなは、「Hello」や「Hi」と言ってくれました。私からもバディやその友達に話しかけたりしました。最初は簡単な英語でも焦ってしまい上手く聞き取れませんでした。しかし、相手が分かりやすい質問にしてくれたりすると会話も続くようになりました。私自身もジェスチャーを入れたりして、なんとか会話をしようをすると相手も分かってくれました。コミュニケーションの難しさを感じると同時に楽しさを実感する体験にもなりました。

私は海外派遣で自分を変えたいと思っていました。今回初めて海外へ行ってみて自分を変える為にはまず、何事にも前向きにチャレンジしようとする気持ちが大切だと分かりました。このような機会を与えて下さってありがとうございました。これからはこの経験を活かし、苦手なことにもあきらめずに進んで行きたいを思います。



↑ホストファミリーと作った折り鶴



↑バディスチューデントと



## My precious memory

Serina Watanabe

2<sup>nd</sup> grade Tsubame Kita junior high school

I had a wonderful time in Australia. I can't forget my nine days in Sydney.

I was worried a lot before I left. "Can I talk in English?" "What will my host family be like?" When I met them, I got very nervous. But they talked to me kindly in easy English, so I was relieved.

This was my first time to visit a foreign country. I tried hard to use English with gestures. I had English lessons there and I listened to the teacher earnestly. I had a hard time at first and I got homesick. But my Japanese friends made me feel relaxed.

At my school in Sydney, there was a twenty-minute recess. During recess, my partner introduced her friend to me and we ate cookies together. I also visited P.E and technology classes there. Unlike Japanese classes, each subject has its own classroom. It was interesting.

On Saturday and Sunday, I went to the beach and shopping with my family in Sydney. We had a good time together. We got closer in those 2 days. So, I felt more comfortable. The next day, I started to enjoy my school life, and I felt the day went by so fast. Therefore, I was very sad when I had to say "Good bye" to them, leaving for Singapore.

I have two things that I learned from this experience. First is the importance of the family. Leaving my family in Japan for 2 weeks, now I feel thankful to them. I was also glad that my host family worried about my health condition.

Second, it is difficult to communicate with people. At school, other students talked to me, saying "Hello" or "Hi". I also talked to my friends' friends. First, I was too nervous to catch their easy English. But, I started to be able to keep talking in English when my friends asked me questions in easy English. I also tried to do some gestures and somehow talked in English, and my friends understood what I said. While I felt how hard it is to communicate in English, I also enjoyed talking with people in English.

I wanted to change myself through this experience. And, now I need to challenge myself if I really want to change myself. From now on, I want to challenge myself. I want to say thank you for giving me such a wonderful opportunity.

今年の夏、私はオーストラリアでとても貴重な時間を過ごすことができました。出発前は、初めての海外旅行で嬉しい反面、自分の英語が通じるのだろうかという不安でとても緊張していました。しかし、初めて会った時からホストファザーはとても温かく迎えてくれました。ホームステイの1日目と2日目は言葉が通じないことばかりでとても不安になりました。しかし、「このままではだめだ、なんとかしたい」と思い、ジェスチャーをしたり、積極的にお手伝いをするようにしました。するとファミリーも単語を紙に書いてくれたり、ゆっくり話しかけてくれて、だんだんコミュニケーションがとれるようになってきました。持って行ったお土産を説明しながら渡すと喜んでくれました。

週末にはシドニー近郊の大きなショッピングモールに連れて行ってもらいました。そこではホストブラザーが私の買いたいオーストラリアのお土産を一緒に探してくれたり、美味しいお菓子を教えてくれたりしました。現地の野菜はとても大きく、例えばナスやカボチャは日本の3倍位でした。日本と違う発見が多く、ショッピングはとても楽しかったです。

現地の学校ではバディスチューデントのアーファンがとても親切に接してくれました。ジェフ、ザック、ピーターなど沢山の友達を紹介してくれました。皆、フレンドリーに話しかけてくれ、楽しく過ごすことができました。午前中はパーリン先生の授業、お昼は友達とランチを食べ、午後はアクティビティでクッキーを作ったりバディの授業に参加しました。購買にも挑戦してみました。授業は音楽、技術、体育でした。体育ではたばこについての勉強でした。先生に「あなたも短いスピーチをして下さい」と言われ7、8文のスピーチをしたら、友達から「good!」「nice!」と言われ嬉しかったです。学校で驚いたことは授業のやり方です。先生が1つの課題を出し、終わった人から自由時間になりました。日本と違うので驚きました。オーストラリアで過ごした8日間は、とても長いようであつという間でした。

シンガポールではマーライオンやマリーナベイサンズを観光しました。新潟県人会の方々との交流会では燕市のPR活動をしたり、英語の歌を歌いました。久しぶりの日本食はとても美味しかったです。

今回の海外派遣で私は多くの文化の違いや生活習慣の違いを学びました。言葉は違ってもコミュニケーションをとりたいと強く思いました。伝えたいという気持ちが重要で、伝わった時はとても嬉しかったです。不安を捨てチャレンジしていく気持ちは、これからの将来に生かしていきたいと思いました。

素晴らしい12日間をありがとうございました。



↑バディスチューデントと



↑現地校で友人たちと

This summer, I was able to spend a very precious time in Australia. Before departure, I was excited because it was the first time for me to go abroad. But I was nervous and afraid, because I was worried about communicating in English. But, when I first met my host father, he was very kind to me. On the 1st and the 2nd day of the home-stay, I could not speak English well, so I was very nervous. But, I wanted to change this situation, I made a gesture and I tried to help my host mother on my own. So, because my host family wrote English words, and spoke slowly, we became able to enjoy talking. When I gave them Japanese presents and explained them, my host family were very glad. On the weekend, my host family took me to a big shopping mall in the Sidney Suburbs. I wanted to buy some presents there, so my host brother helped me to search for Australian goods, and he told me about delicious snacks. Australian vegetables were very big. For example eggplants and pumpkins were three times as large as the ones in Japan. There were many differences with Japan, so I enjoyed shopping very much.

At the school, My buddy-student, Aaffan was so nice to me. He introduced me to a lot of friends such as Jeff, Zack, Peter and others. Every student was friendly to me, I enjoyed communicating with them. Ms. Parlin's class was in the morning, I ate lunch with my friends, I made some cookies and joined my buddy's class. I also tried to buy some things. The lessons were music, technology and P.E. The P.E. lesson was about smoking. The teacher said to me "please make a speech". I said 7 or 8 sentences, my friends said "good!" and "nice!", so I was really glad. In the class, I was surprised at how lessons were done. There was one question, We tried it and the person who finished was free. I was surprised at the difference to Japanese lessons.

The 8 days in Australia passed so fast. In Singapore, we went sightseeing to the Merlion, and Marina Bay Sands. When we participated in an exchange meeting called kenjinkai, we told them about Tsubame city through our presentation, and sang some English songs together. The Japanese food was very delicious, because we hadn't had it for a long time.

Through this overseas trip, I learned about many differences in culture and living habits. Our languages were different, but I wanted to communicate more with the people I met. Wanting to communicate is important, and when they understood me, I was really glad. I want to use this positive attitude in the future.

Thanks for these precious 12days.

私は、初めての海外、ホームステイでとても不安でした。最初の日、ホストファミリーの会話が聞き取れなかったり、自分に話しかけられても、何も答えられなくて落ち込みました。でも、後悔したくなかったので勇気を出して話しかけてみたら、私の話をゆっくりと聞き、一生懸命理解しようとしてくれました。それから、私の家族のことや、日本から持って行った折り紙の話で盛り上がり、楽しむことができました。ホストファミリーに、図書館やショッピングモールなど、色々なお店に連れて行ってもらい、たくさんの思い出を作ることができました。短い間でしたが、私と本当の家族のように接してくれて、充実したホームステイでした。

現地の学校に通ったこともいい経験になりました。すぐに仲良くなることができました。バディに会う前は、仲良くなれるか心配でしたが、バディや彼女の友達は優しく、昼休みには、トランプをして遊びました。日本にはないルールを教えてくれるとき、私が理解していないようだとなると、易しい英語で何度も説明してくれました。授業に参加した時には、クラスメイトが日本語で「こんにちは」と言ってくれたり、たくさん話しかけてくれてうれしかったです。もし反対に、急に私の授業に外国人が入ってきたら緊張して話しかけられないと思うので、オーストラリアの生徒たちはとてもフレンドリーだなあと感じました。

最後の日には、たくさん写真を撮ったり、プレゼントを渡し合って別れを惜しみました。バディたちが「またオーストラリアに来てね」「私も日本に行ってみたい」と言ってくれて、別れるのはつらかったけどいつかまた会えたらいいなあと思いました。

親善大使として過ごした12日間はとても充実していてあっという間でした。すべてが輝いていて一生忘れられない大切な思い出です。学んだこともたくさんあります。英語を上達させるには、とにかく話すこと、わからないときは正直に聞き返すことが大事だと思いました。

私は、将来また海外に行って英語を勉強したいと考えています。そのときには、今回学んだことを生かしたいです。また、燕市のPR活動をする中で、私も今回初めて知ることもあったので、外国の文化はもちろん燕市や日本についても学んでいきたいです。親善大使として海外に行くことができたのも、スピーチコンテストの指導をしてくださった先生方、家族、燕市や企業の方々など、多くの方のおかげです。たくさんのご支援、ご協力に感謝します。ありがとうございました。



↑ホストファミリーとの初対面



↑バディたちとモーニングティー



I was nervous because I went abroad and participated in a home stay for the first time. On the first day, I lost my self-confidence because I couldn't understand what my host family said. Also, when my host family spoke to me, I couldn't answer. But I didn't want to regret anything, so I built up the courage to speak to my host family. They listened carefully to my words and tried to understand me. After that, they were excited to talk about my family and origami. I enjoyed the home stay from then on. I was taken to many places such as the library and a shopping mall by my host family. Thanks to that I made a lot of memories. It was only a short visit, but my host family treated me like a real family. It was an enriching home stay.

Going to the local school was a good experience, too. Before meeting my buddy, I was worried about befriending her, but she and her friends were very kind. I became friends with my buddy quickly. At lunch time, we played card games. When I was told about the rules, they explained them to me many times in easy English. When I took part in lessons, my classmates said "konnichiwa" in Japanese and they talked to me a lot. I was very happy. On the contrary, if a foreigner suddenly entered my class, I couldn't speak with them easily. So I thought Australian students were very friendly.

On the last day, we took many pictures and exchanged presents with each other. We were sad when we parted. My buddies said "Please come to Australia again." and "I also want to go to The 12 days I spent as a goodwill ambassador were very fulfilling and fleeting. All those shining and precious memories will be unforgettable for the rest of my life. Also, this is what I have learned. I think that it is important to speak honestly when I don't understand, and to speak as much as I can in order to improve my English.

I want to go abroad again to study English in the future. At that time, I want to make use of what I have learned. And while we were working on PR, I learned things about Tsubame city for the first time. So I'll learn even more about foreign culture as well as the culture of Tsubame and Japan next time. I was able to visit abroad as a goodwill ambassador thanks to my teachers, my family, Tsubame city's companies, and many more people. I appreciate all of their support and cooperation. Thank you very much.

私は、オーストラリアに、燕市の親善大使として訪れました。ホームステイを通して、オーストラリアのいろいろなことを学びました。しかし、ホストファミリーと対面したときは、とても緊張しました。自分のことをどう話して良いのか全くわからず、不安を感じて、混乱していました。でも実際は、ホストファミリーは、快く私を迎えてくれてとても安心しました。ホストファミリーは、1匹の犬と夫婦2人で一緒に暮らしている家族でした。平日は学校に通い、その後は、ホストファミリーとたくさん話したり、犬と遊んだりして過ごしました。

休日は自然公園を散策したり、大きなデパートへ出かけに行ったりして、お店の様子や売っているものなどが、日本と違うことがわかりました。また夜遅くまでピザプレイスに行って、店員さんの生演奏を聴いたり、小さな動物園へ行ったりしました。動物達もたくさんいましたが、中でも特にびっくりしたのはアヒルやカモがケージの中に入っておらず、のびのびと湖で泳いだり、自然公園内を歩いていたことです。そして、小さなカンガルーも見に行くことができました。写真で見るのと違い、動きの一つ一つがとても独特でした。オーストラリアを、肌で感じることができました。

現地のムーアバンクハイスクールでは、生徒たちとバスケットボールをして遊んだり、一緒に授業に参加したりしたほか、オーストラリアの文化を学んだりもしました。生徒たちは、とても友好的で私たちのためにドア開けてくれたり、たくさん話しかけてくれました。現地の高校生たちが、私たちを歓迎してくれて、温かい気持ちになりました。だんだん日が経つにつれ、友達もたくさんできて、英語にも少しずつ慣れてきました。学校では、英語だけを聞き、英語しか話してはいけなかったのが、最初はとても大変でした。しかし、時間がたつにつれ、「英語の世界」に少しなじむことができたような気がしました。

フェアウェルパーティー(お別れ会)では、皆と一緒に、オーストラリアで最後の夕食を食べました。あと少しでホストファミリーとお別れすると思うと、今にも涙が流れそうでした。そして翌朝、ホストファミリーとの別れを惜しみ、また来ることを約束しました。

オーストラリアを後にして、シンガポールでは、新潟県人会の方々と日本食を食べてその後私たちは歌を歌いました。この経験は、これからも絶対に忘れません。

また、何事にもチャレンジすることの大切さも実感しました。オーストラリアでの日々は、私にとって忘れられない思い出となりました。



↑ホストファミリーと



↑現地学校でのクッキー作り

## What I've learnt in Australia

Haruka Tanabe

1<sup>st</sup> grade Tsubame Secondary school

I visited Australia as a Tsubame City Goodwill Ambassador. Through my homestay, I learned about Australia. When I met my host family for the first time, I was very nervous. I had no idea how to talk about myself, and I felt anxiety and confusion. Although I was very nervous and anxious, my host family welcomed me, so I was very relieved. There are a host father, a host mother, and a dog in my host family.

On weekdays, I attended classes at the local school. I talked a lot with my host family and played with their dog after school. On holidays, I walked around the nature park and went to a big department store. I found that the things in the department store were different from those in Japan. I went to Pizza Place late in the evening and listened to the live performances of the clerks, and I went to a small zoo near Pizza Place. We could see many animals there. The most surprising thing was that ducks and wild ducks were not in a cage. They were swimming in the lake and walking freely. I also saw small kangaroos. I could feel Australia through everything I saw and heard. Each of their movements were unique and it was very different from what I expected.

At the Moorbank High School, I played basketball with the students and I joined their class. I learned a lot of things about the culture of Australia. The students were very friendly. They opened the door for us and talked to us a lot. I was very happy because all the students welcomed me, and it made me feel very warm. As time passed, I made a lot of friends and got accustomed to Australian English. At school, we had to listen to and speak only English, so I had great difficulties. However, after a while, I became used to the situation and felt a little happier with this "English Only" world.

At the farewell party, we ate our last dinner in Australia together. I couldn't help crying when I thought about my last moment with my host family. The next morning, I said goodbye to my host family and promised to meet them again someday.

I left for my flight to Singapore and ate Japanese food with the people from Niigata Kenjinkai. After that, we sang a song together.

My days in Australia have become an unforgettable memory for me. I also realized the importance of challenging myself. I will never forget this experience.

私は、この夏、忘れられない時間を過ごしました。燕市の親善大使としてシドニーを訪問し、そこに8日間滞在したのです。私はそこで初めて挑戦するであろう沢山の事に期待と不安が入り混じっていたのですが、たった8日間の中でとても素晴らしい経験をする事が出来ました。

私がお世話になった現地校は千人以上の生徒がいる超BIGな中高一貫校でした。そこで沢山の生徒の方々とふれあいました。笑顔で手を振ってくれたり、私が日本人であることが分ると、「こんにちは」と挨拶してくれたりもしました。とても嬉しい気持ちで胸がいっぱいになりました。また、現地校では選択制の日本語の授業も行われていてとても驚きました。中には、日本人並みの日本語を話す人もいて、「こんなところでも日本語は学ばれているんだ!」と感じ嬉しかったです。また日本の漫画が大好きという人もいて共通の話題を探りながら頑張って楽しく会話をする事が出来ました。

また、現地校には、「リセス」というおやつタイムがあります。それは、燕市のPRをするために訪れた小学校にもありました。私は現地校に通うバディとその友達と約30分のおやつタイムを一緒に過ごしました。とても楽しかった一時でした。おかげで友達との仲もぐっと深まったので日本の学校にも取り入れてほしいです。

私を受け入れてくれたホストファミリーは、15年以上のホスト経験をもつベテランでした。まるで家族の一員のように接してくれました。でも、私の方はまず文化の違いに戸惑い、そして伝えたいことが伝わらないことから消極的になりホームシックになってしまいました。しかし、「このままじゃダメだ。変わらなきゃ!」と思い、次の日から辞書やジェスチャーを使って接していききました。少しずつ、ホームステイが楽しいと思えるようになりました。次第に、スポーツ好きなホストファミリーとサッカーをテレビ観戦しているうちに自然に会話も弾むようになりました。週末には、買い物に連れて行ってもらいました。また犬の散歩もさせてもらいました。私はペットを飼ったことがないので初めての経験でした。

犬の散歩中、びっくりしたのを見つけました。それは一つだけ花を咲かせた桜でした。他の木にもぷっくりとふくらみピンクに色づき始めている桜の蕾がありました。オーストラリアは日本とは季節が逆で、もうすぐ春になるということを日本にもある桜の花で知ることができ、とても感動しました。

今回の親善大使の活動で学んだことは、挑戦することの大切さです。失敗を恐れず積極的にホストファミリーと話すことができ本当に良かったと思っています。ここには収まらないほどたくさんの思い出があふれてきます。このような素晴らしい経験をさせていただきまして本当にありがとうございました。



↑ホストファミリーと散歩



↑マーライオン公園にて



## A Wonderful Time

Yurii Fukaumi

2<sup>nd</sup> grade Tsubame Secondary school

I had an unforgettable time this summer. I visited Sydney as an ambassador of good will of Tsubame city and stayed there for eight days. I had mixed expectations and anxiety about the many things that I would be experiencing for the first time there. While short, even eight days can hold a wonderful experience.

The local school that took care of me was a secondary high school. It was very big and had over 1000 students in all. I met with many students there. They waved at me with smiles and they understood that I was Japanese so they said, “Konnichiwa” I felt happy in my heart. Also, I was very surprised to have been selected to attend a Japanese language class in the local school. And, the students spoke Japanese as well as Japanese people. I thought “Even people here learn Japanese”. I was very happy. Some of the students said, “I love Japanese manga”. I like manga too. So, I had fun talking about manga with them.

Also, the local school had a snack time call “Recess” I also learned that the other local elementary school that I visited to promote Tsubame city had a recess. I spent about 30 minutes with my Buddy and her friends at recess. I had a great time. I had fun with my friends, so I want Japanese schools to have recess, too.

My host family were veterans with over 15 years of host family experience. We became close. It was as if I were a member of the family. But, I was confused by their different culture and I could not say what I wanted to convey. So, I lost motivation and became homesick. Then I thought “I can’t leave it like this. I have to change.” From the next day, I spoke with my dictionary and gestures. Little by little I came to think “homestay is fun!!!!!!!!!!” My host family likes sports. When watching sports on TV together, I was able to talk with them naturally. On weekends, they took me shopping. And, I helped walk their dog. I have never had a pet, so it was my first experience.

I found one surprising thing while walking the dog. It was a cherry blossom tree!!! Other trees had some buds on them. Australia has seasons that are the opposite of Japan. It was just becoming spring. Because I saw a Japanese flower, I felt very surprised and happy.

After this trip, I learned the importance of challenging new things. I learned to not fear failure by talking with my host family. This was a valuable thing to learn. I feel grateful to have had such a wonderful experience. I am filled with wonderful memories from this trip.

この夏の 11 日間という大きな存在。そして、忘れることのできないあたたかい思い出。楽しいだけでは終わらない最高の日々だった。私の前に立ちはだかった大きな壁。ホストファミリーやバディと会った時、一番初めに立ちはだかった壁はやはり「言葉」だった。

今回の派遣では現地の中等学校と小学校の 2 校を訪れた。中等学校には五日間通い、バディと昼休みやリセスを共に過ごし、授業も一緒に受けた。登校初日、バディと会う瞬間は心臓の音で頭がいっぱいになるほど緊張していたのを今でも覚えている。Hi! と元気な声で挨拶を交わし、リセスの時間になるとバディの友達が待っていてくれた。たくさんの質問をしてくれたのだが、私は聞き取ることができず答えられるものの方が圧倒的に少なかった。答えることができない申し訳なさとお自分の力不足さを痛感した。悔しかった。

そんな中、1 日が経ち、学校に通うと名前を呼ばれることが多くなった。ローマ字で書かれた名札を毎日つけていたが、母音がつながってしまうため初日は正しく呼ばれることが少なかった。だから呼ばれることになれておらず少し気恥ずかしい反面、親しい仲になれて嬉しかった。それを感じた瞬間、私の頭の中にはみんなの名前を呼べるほど覚えているのだろうか、という疑問がよぎった。そして私は気づいたのだ。自分から少しずつ相手と距離をおいているということに。私はコミュニケーションから逃げていた。言葉という壁から逃げていた。難しい単語の多さに圧倒され諦めかけていたのかもしれない。

だが、そんな高い壁など本当は無いのだと私は思った。なぜなら、名前を呼びあうだけでもこんなに幸せな気分になれるのだから。それを学んで以来、私は相手と英語で会話をする際、肩の荷がすこし軽くなったように感じた。緊張するよりも話をしようという思いを持つ方が何よりも楽しむことができた。

その後訪れた小学校では、休み時間に縄跳びなどで交流をした。もちろん、言葉という壁を感じることなく心から楽しいと思えた。人と繋がる方法は言葉だけではない。相手との交流を楽しむことが何よりもお互いに打ち解けあうキッカケになると私は改めて感じた。太陽のように笑う友達ができた。そして彼らからもらったあたたかい思い出とたくさんの元気。今でも彼らとの思い出は鮮やかに心の中に残っている。そして、それらを思い出すと心があたたかくなる。

たくさんの感謝と共に次は私が誰かをそんな気持ちにできるよう、日々生活していきたい。



↑バディと2人で



↑家庭科の授業に参加

I had a great experience for 11 days this summer. And I made happy memories that I can never forget. This was the greatest time I've ever had, and it was more than just having fun. Before traveling to Australia and Singapore, it felt like there was a big wall that stood in front of me. When I met with my host family or buddy, the first thing I found was a "language barrier"

In this trip, we visited a local secondary school and an elementary school. I went to the secondary school for 5 days, I spent the lunch break and recess with my buddy and we took lessons together. I still remember I was so nervous that I could hear nothing but my heartbeat when I met my buddy on the first day of school. We cheerfully greeted each other by saying "Hi!", and my buddy's friends also came to meet me at that time. They asked me a lot of questions, but I couldn't answer. So I was very sad and I felt that my English ability was insufficient. I regretted it.

As the days passed, I had my name called more at school. In my name there are connected vowels, which are hard for English speakers to say. So on the first day, my name was rarely called correctly. I was not used to being called on, so I was a little embarrassed. On the other hand, I was happy to become closer to my classmates. When I thought about my classmates, I asked myself, "Do I remember their names well? Can I call their names?" And I noticed something. I was gradually making a distance between myself and everyone else. I ran away from having to communicate with others. I ran away from the language barrier between us. I almost gave up because I was overwhelmed by so many difficult words.

However, I thought there is no such thing as such a wall. Because I could feel happy simply by calling each other's names. I felt more relaxed while talking in English. Even though I was nervous while talking, I enjoyed the interactions.

Later, we visited an elementary school and we interacted with the pupils by playing jump rope. Of course I did not feel the language barrier and I could enjoy it from the bottom of my heart. Words are not the only way to connect with people. This was the first time I was able to experience that kind of connection with someone. I was able to make friends who shine like the sun. I made precious memories and they give me strength. Even now my memories with them are able to cheer me up. And remembering them makes my heart feel warm.

I'd like to live every day being kind and thankful.

私は、毎日ホストマザーの作る食べ物を食べて、学校の生徒と楽しい会話ができました。そして、充実した生活を過ごすことが出来ました。

まず、私がオーストラリアの学校に通っていて感じた事があります。それは、人とのつながりが広いということです。男女関係なく、一緒に楽しいランチをしていたり、60分授業で生徒の声が教室の端から端まで飛び交っていました。それと比べると、日本の学校では女子と男子の関わりが強いとは言えないと思います。だから燕市からやってきてまだ間もない私はとても驚きました。

そして、学校の何日か通っているうち、に毎日一緒に食事をしている子の顔に目がいききました。私は、その子が日本人の顔に似ていたので、「あなたは日本人ですか？」と聞きました。すると、彼女は、「違います。中国人です。」と答えてくれました。出身から離れた場所に住んでいるアジア人に何故か親近感が湧いてきてしまいました。その後、学校の先生から「多民族国家だからこの学校も様々な人種の子がいるのだ。」と教えてもらえました。すごく納得出来ました。また、学校生活を通して、お互いの違いをよく理解し、仲良くする大切さを学びました。

学校からホストファミリーの家へ帰ると毎回「学校はどうだった？」と気にかけてくれました。彼らの趣味の映画鑑賞を一緒にしたのも、全てが良い思い出です。一番印象的だった出来事は、鼻血事件です。それは、ホームステイ初日、家に着いてすぐシャワー浴びた後、鼻血が出てパニックになった事です。あわててしまった私は、自分のティッシュを探せずにいました。なので、ホストマザーを何度か呼びました。ホストマザーは何度も「大丈夫なの？」と心配してすぐにティッシュを出してくれました。私は、そこでここにホームステイできてよかったと、安心できました。たくさん会話が出来てよかったです。

このように、普段は出来ない貴重な経験をすることが出来ました。燕市が作ってくれたこの機会を忘れずにしたいです。また、英語力の向上に励みたいです。



↑ホストマザーと初対面



↑バディとの楽しいランチ



## The differences between Japan and Australia

Tomoka Myodo

3<sup>rd</sup> grade Tsubame Secondary school

I always ate the dinner my host mother cooked and talked with my friends at school. . My time in Australia was very fulfilling.

First of all, I noticed some things while attending school in Australia. There certainly are strong ties with people in the school. The students ate lunch together, regardless of their gender, and they actively talked to In Japan, the relationship between boys and girls is not very strong, so I was very surprised to see this.

While at school, I would always see one girl while we were eating lunch. I asked her “Are you Japanese ? ” because she looked like a Japanese person. Then, she said, “No, I’m Chinese.” I don’t know why, but I felt close to her because both of us came to Australia from different countries. After that, a teacher told me “there are a variety of races in our school because Australia is a multi-ethnic country.”I understood what they said. Through school life there, I learned that understanding different situations well is important.

At host family’s house, my host mother was very kind and asked “How was your day at school ? ” every day. My host family’s hobby was watching movies at home so I was glad when we watched movies together. My best memory is of my nosebleed incident. I had a nosebleed right after I took a shower on the first day of my homestay. I frantically searched for my tissues but I couldn’t find them. So I called for my host mother several times, “mother ! mother!” . She gave me tissues at once and was very worried about my condition. After that, I was glad to stay with my host family there. Also I was glad to have many conversations.

I had many precious experiences. I think I’ll never have a chance like this again. From now on, I want to study English very hard.

2018年の夏、私にとって最高の思い出ができました。海外派遣事業でオーストラリアで過ごした9日間です。初めての海外、初めてのホームステイ、初めての事だらけでした。緊張と不安でいっぱいだった私をホストファミリーは暖かく迎えてくれました。

ホストファミリーの家ではゆっくり、リラックスして過ごすことができました。学校から帰るとおやつとジュースを飲みながら1日のことについて話したり、夕食後にはファミリーとテレビを見たりしました。毎日8時にはそれぞれ部屋に入り寝る準備をするので自分の時間を持つこともでき、また、早く寝て健康的な生活を送ることができました。

ファミリーの家の食事は白米が出てくることが多く、とても驚きました。ある日は塩ラーメンのようなヌードルも出てきて、まるで日本にいるようでした。食後にはアイスクリームやフルーツを食べていました。アイスクリームが大好きなファーザーのことをマザーが「彼の名前はアイスクリームよ。」と言っていたのがすごく面白く、毎晩の夕食の時間がとても楽しかったです。

ムーアバンクハイスクールではたくさんの思い出ができました。毎日午前中の英語レッスンではパーリン先生から英語だけでなく、オーストラリアの文化についてもたくさん教えていただきました。そしてバディのロマや他の生徒との交流は本当に楽しいものでした。いつもモーニングティーやランチをロマやロマの友達とすごしていました。日本とは違い、生徒たちがそれぞれ自由に集まってモーニングティーやランチをとっています。私たちはテニスコートの入り口のそばで円になって座って食べていました。たくさんの生徒たちが「Hello!」や「こんにちは!」と声をかけてくれてすごくうれしかったです。

またバディと参加した授業でもたくさんの生徒たちが話しかけてくれたり、授業について教えてくれたりしました。3日間の授業参加の中で何回か同じだった生徒と仲良くなることができ、日本の学校について話したり、逆にオーストラリアの学校について話したりして異文化交流をすることもできました。

このオーストラリアで過ごした9日間は一生忘れない思い出になりました。このオーストラリアのホームステイや学校での生活を通して異文化交流の楽しさを知りました。また海外に行きたい、またホームステイをしたいと思うようになりました。これからは日本に来た留学生と積極的にコミュニケーションをとったり、また留学についても考えてみたいと思います。この経験を将来のことや進路に役立てていきたいと思いました。



↑ホストファミリーとの初対面



↑現地校の友達と一緒にランチ

## My 9days Were Full Of Firsts

Shiori Yoshioka

3<sup>rd</sup>grade Tsubame Secondary School

This summer, I was able to make a lot of good memories. I spent nine days in Australia. It was my first time going abroad, my first homestay and the trip was full of other firsts.

I felt tense and was worried at first, but my host family warmly welcomed me. I spent a relaxing time in my host family's house. When I got home from school, we talked about the day's activities while eating snacks and drinking juice. And when I finished eating dinner, I watched TV with my host family. My host family went to their rooms every night at eight so I could have my own time.

I was surprised that some dinners had rice. One day, the dinner had noodles that were like ramen. I felt like I was in Japan. I ate ice cream and fruit after dinner almost every night. My host father liked ice cream. So my host mother said "His name is ice cream". It was funny. I enjoyed dinner every day.

I made a lot of memories in Moorebank High School, too. We had an English lesson in the morning every day. I was taught not only English but also about Australian culture by Ms. Patricia. And, interacting with my buddy Roma and other students was very fun. I always spent morning tea and lunch with them. In Australia, students get together and have morning tea and lunch freely. It's different than in Japan. We ate by the tennis court sitting in a circle. I was glad that many students said "hello!" and "Konnichiwa!" to me.

I joined my buddy. Many students talked to me and taught me about the classes. I became friends with students in the same class as me. We talked about school in Japan and school in Australia. It was an international exchange of ideas, too.

I won't forget those 9 days that I spent in Australia. This trip has become a special memory in my life. I learned about the fun of international exchange through home stay and school life. I would like to go abroad and do home stay again. From now on I'll talk to international students more and look into studying abroad. I want to make use of this experience for my future.

今回の海外派遣事業を通して、私にはたくさんの気づきがありました。日本で平凡な毎日を送っているだけでは絶対に出来ない「気づき」を私は得ることが出来ました。

一つ目の気づきは、英語で伝えることの難しさです。聞こえてくる会話は全て英語という家の中、日本語がわかる人など、もちろんいません。私が英語で伝えるしかないのです。最初は、「シャワーはいつ使えばいいですか？」などという簡単な質問をするのが精一杯で長い会話をする余裕はありませんでした。「今日の学校はどうだった？」と、聞かれても「楽しかったよ」としか答えられない日もありました。私にとってそれがとても悔しく、その日から、こんなことを言ってみようと頭で考えるようにしました。そうすると、すらすら感想が言えるようになったのです。それからは日常会話も増えました。

二つ目の気づきは日本との違いです。まず、学校の雰囲気の違いです。現地の学校は学年、男女関係なく仲良くしていました。日本では、先輩、後輩という関係を意識してしまう人が多いので、その光景はとても新鮮でした。

三つ目は、衛生面の違いです。率直な感想を言うと、オーストラリアはとてもゴミが多かったです。学校の壁にガムがついているのは当たり前、道にポップコーンが散らばっていても気にしない。これを見ると日本がどれだけ綺麗なところかに気づくことが出来ました。生徒自身が学校を清掃する日本の制度は素晴らしいものだと思います。

知らなかったことに気づくためには、そのきっかけを作るために自分が行動をおこさなければなりません。今回、私はこの事業に参加するというきっかけを自分でつかみました。自分の殻に閉じこもって周りを見ようとしなければ何の変化にも気づけません。これからも、新しいことに挑戦し、もっと広い世界を見る努力を続けていきたいと思います。



↑フェアウェルパーティー



↑新潟県人会の皆さんと



On this homestay trip to Australia, I made lots of discoveries. These discoveries were special in that they could not possibly have been made while living normally in Japan.

When I went to Australia all of the conversations I heard were in English. There were few people who understood Japanese. I needed to speak in English. At the beginning, I could not speak for a long amount of time. However, I regret that. So I decided to think of what I wanted to say in my mind first. Then I became able to speak more easily. And, I enjoyed having daily conversations with my host family.

The second discovery was of the differences between Japan and Australia. In local school, students enjoyed talking with each other without thinking about grades or their different genders. In Japan, there are many students who are conscious of the relationships between junior and seniors so it was refreshing to me that students of different classes were able to mix freely without thinking about those relationships.

The third discovery was of the difference in sanitary practices. To be honest we see a lot of garbage everywhere in Australia. I saw a lot of gum on the road and bits of popcorn and other food scattered everywhere. Looking at those things I was able to see how beautiful Japan is. I thought that Japanese students themselves cleaning their schools are wonderful.

It is necessary for me to come out of my shell for me to make discoveries about the things that I do not know. This time, I grabbed this opportunity to participate in this event by myself. I cannot make new discoveries while trapped in my shell. From now on, I want to continue making efforts to see the wide world and to challenge new things.

私は、オーストラリアで特別な時間を過ごしました。燕市の親善大使として、シドニーを訪問し、滞在することで、今までにはない程の沢山のことを吸収しました。その中でも、特に忘れられないいくつかの思い出について書きたいと思います。

私がオーストラリアに行き、1番驚いた事は、どの人たちもフレンドリーだということです。すれ違う度に「Hello」や「Hi」と挨拶をしてくれました。日本語が上手な人達も多くいました。外国で聞く「こんにちは」には、とてもうれしくなりました。さらに、会う度に挨拶だけでなく「Have a good time」などと声をかけてくれる人もいて、あたたかい歓迎に驚きを隠せませんでした。

授業を通して現地の生徒と話してみると、日本のアニメーションやアイドルを好む人が多くいて会話が弾みました。また、現地校の男女の距離感にも驚かされました。男女同士とても仲がよく、男女の壁を感じませんでした。現地校では、歓迎ムードに圧倒され、全ての事に驚きました。

ホームステイ先では、忘れられない時間を過ごしました。1番の思い出は、ホストファミリーとしたトランプです。お互いにゲームが好きで、夜には毎日のようにトランプをして遊びました。私の中の知っている英語を精一杯使い、3つの新しいトランプのゲームを教えることが出来ました。ホストマザーもゲームをととても気に入ってくれ、とても嬉しかったです。その時、私は、難しい英語での説明も一生懸命ジェスチャーなどの身振り手振りで伝える事が大切だと改めて感じました。

ホストマザーと何度かウォーキングしたことも大切な思い出です。学校から帰ってきた後や休日には、ビーチまで行き、美しい砂浜の上をウォーキングしました。また、ウォーキング中には、家族の事や日本の事など沢山の事について話す事が出来ました。ホストファミリーには、様々な場面で助けてもらいました。「日本へポストカードを送りたい」と言えば、「Not normal card !!」と7店舗以上もオーストラリアのポストカードを探してくれました。私の胃が痛くなったときも、とても心配してくれて看病してくれました。私を本当の家族のように接してくれたホストファミリーには、感謝の気持ちで一杯です。

私は、来年も研修旅行としてオーストラリアに行きます。ホストファミリーとは、「I definitely will meet again」と約束をしました。帰国した今でも、お互いに繋がりたいという思いでメールを通して家族と連絡を取り合っています。この繋がりをいつまでも大切に、さらに英語力を向上させていきたいです。



↑ホストファミリーとお別れ会で



↑ホストファミリーとトランプ

I had a wonderful time in Australia. I visited and stayed in Sydney as a goodwill ambassador of Tsubame City and learned so many things there. I am going to write here about some of the memories I will never forget.

What surprised me most was that people there were very friendly. Australian students said “Hello” or “Hi” as they passed me. Some people spoke Japanese very well. I was very glad to hear “Konnichiwa” in foreign country. And I was very touched by the words “Have a good time” because I felt I was really welcomed.

Japanese animation and idols were loved by students in Australia. I was also surprised to see how close to one another boys and girls are in school. They were very friendly, and I didn’t see any barriers between them. In school, I was overwhelmed with the welcoming atmosphere and I was amazed at everything.

I had an unforgettable time with my host family. My best memory was playing cards with them. We both liked card games and played cards every night. I managed to teach them three new card games with my English. I was very glad to see my host mother really liked the games. I felt it was important to use gestures when you try to explain something in English.

Taking a walk with my host mother is a good memory, too. After school and on holidays, we often went to the beach and walked there. We talked a lot about my family or Japan while walking. My host family helped me in many ways. When I said “I want to send postcards to Japan.” My host mother went to seven stores to get them, saying “Not normal cards!!” She worried about me very much and took care of me when I had a stomachache. I thank my host family very much for treating me just like family.

I am going to visit Australia again next year on a school program. I promised them, “I definitely will meet you again.” We still e-mail each other because we want to communicate more. I’d like to improve my English keeping in touching with my host family.

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	小島 悠果
-----	----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 親善大使として燕市をPRすると共に現地で友達をたくさん作り、その子たちにも燕市を招かいする。

目標② ホストファミリーとたくさん会話をして自分の英語力を高め、最終日には自分の気持ちが英語でスラスラ伝えられるようにする。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 現地校やホストファミリーに燕市をPRすることができ、パディや他の友達にも学校のちがいなどを伝えることができました。

目標②について ホストファミリーにあまり積極的に話すことができず、少し後悔していますが、オーストラリアについては積極的にきけたので良かったです。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

私は現地の小学校へ行ったことが思い出です。同学年の子がいたので、日本の六年生とオーストラリアの六年生のちがいを知ることができました。また、五年生とも交流し、「Yuri!!」と呼んでくれて嬉しかったです。全学年、フレンドリーで声をかけてくれたり、手をふってくれたりして、心がほっこりしました。今回、小学校へ行ってとても刺激的でした。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

今回、経験した貴重な経験を無駄にせず、これからもどんどん国際社会に出ていきたいです。また、英語をペラペラに話せるようになり、他の国へもっともっとう行ってみたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

スピーチコンテストからオーストラリアまで、たくさんの人の前で話す機会がたくさんあると思いますが、自信をもって相手にせいいっぱい思いを伝えようとすれば、相手は理解してくれます。苦にせず笑顔でがんばって下さい。



「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	塩原 美輝
-----	-----------------	----	-------

1 海外派遣事業の親善大使として、目標を決めましょう。

目標① 燕市の親善大使として、燕市や日本の文化のことをPRし、たくさんの方々に、燕市の伝統工業の素晴らしさを、日本の美しい風景や和服など様々なことをたくさん知ってもらおうこと。

目標② この海外派遣で、もっと英語を深めて、話せるようにしたいです。そして、現地でしか学べない文化や習慣を知り、現地でたくさんの友達をつくりたいです。そして、どんなことがあっても負けずに頑張ります。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 私は、ホストファミリーや現地でできた友達に、日本の伝統文化である、折り紙を一緒に折って紹介しました。そして、燕市の金属加工などについても、十分にPRすることができたと思うので、良かったです。

目標②について 私は、今回の海外派遣で自分が使える精一杯の英語を使い、ホストファミリーや現地でできた友達と、自分から積極的に話をしました。そして現地では、本当にたくさんの友達ができ、とても良かったです。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

私が最も思い出に残っていることは、ホストファミリーと過ごした日々です。夕食では、毎日ホストファミリーが作ってくれたおいしい料理を食べながら、その日にあった出来事や、日本のことを話したりしていました。週末になると、ショッピングセンターやビーチに連れていってもらいました。本当の家族のように過ごせて、とてもうれしかったです。私は、ホストファミリーのおかげで毎日が楽しく、とても充実した日々を送ることができました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

私は、今回このスピーチコンテスト、海外派遣事業に挑戦し、本当に良かったと思っています。今回の事で、改めて挑戦することの楽しさと大切さが分かりました。なので、これからも、何事にも挑戦し続け、また様々な事に全力で取り組んでいきます。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

私は、今回の海外派遣事業に参加して、本当にたくさんの事を学ぶことができました。そして、それらは、私の人生そのものに大きな影響もあたえてくれました。こんなに素晴らしい経験が出来るのは、今しかありません。少しでもその気があったら、ぜひ参加してみてください。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	渡邊 世里菜
-----	----------------	----	--------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 自分の英語力の向上です。自分が知っている英単語を  
 ならべて使ったり、うまく伝えられなくてもジェスチャーを使っ  
 たりして、ホストファミリーや現地の人に積極的に話していきたいです。  
 目標② 燕市のPRをし、オーストラリアの文化や食べ物、歴史  
 を知って、どんなところが違うのかを知り、触れて燕市に  
 帰って現地のことを伝えたいです。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 積極的に話しかけても会話が続かないこ  
 とがあったけどめげずに話しかけました。言葉が伝わらな  
 くてジェスチャーで伝えたり、違う言葉を使って伝えました。  
 目標②について PR活動ではホストファミリーや現地の人に楽し  
 んでもらえました。文化の違いを肌で感じられて、面白が  
 ったです。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーと一緒に海へ行ったことです。その日は風  
 が強くて海の近くに行くともっと風が強くて、吹き飛  
 ばされそうでしたが、海がきれいな青色で美しかったです。  
 ホストファミリーと海のことを話したりできて楽し  
 かったです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

うまく伝わらなかったこともたくさんあったので英語力を  
 もっと上げていきたいです。  
 英語で苦手な部分をめげずに勉強していきたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

自分を愛えられるチャンスです。大変だけど頑張ってやりと  
 げた後は、行って良かったと思います。ぜひ海外派遣  
 をやってみてください。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	山田 悠泰
-----	----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① ホストファミリーと積極的に会話をし、ジェスチャーなどで自分の思い伝えたいです。

目標② オーストラリア、シンガポールの現地の文化や歴史、観光名所などを学び、またこの燕市の文化や歴史、観光名所をし、かりPRして、興味を持ってもらうことです。

2 目標は達成できましたか？

目標①について ホストファミリーとの会話では、言葉のウベがあり、通じない時もたくさんありましたが、ジェスチャーで表現したり、絵を描いたりして自分の思いを伝えられました。

目標②について アボリジニの道具をホストファミリーから見せていただいて興味を持ちました。燕市のお土産を説明しながら渡したら、ファミリーが驚いて聞いてくれ、とても喜んでくれました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホストファミリーと過ごした時間です。初めは自分の英語がファミリーに通じるのか、8日間一緒に過ごせるか、などたくさんのが不安でした。しかし、日が経つにつれ、伝えたい事が伝わりとどんどん楽しくなり、時間がとても短く感じられました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

現地で学んだ英語と挑戦する気持ちで、積極的に英語活動や色々なことに参加したいと思います。そして将来は、英語の関連している職業に就きたいと思います。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

僕は、ホストファミリーとの会話で、通じないことがたくさんありました。でも、ジェスチャーやイラストを描いたりして、自分の思っていることを伝えました。みなさんも、言葉が通いなくても、あきらめずなんとか伝えるよう頑張ってください。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	坂戸 彩華
-----	-----------------	----	-------

1 海外派遣事業の親善大使として、目標を決めましょう。

目標① ホストファミリーにたくさん積極的に話しかけて仲良くなり、自分の英語力を高めたいです。

目標② 燕市や日本のことを英語で紹介し、ホストファミリーや現地の人に燕市や日本のことを知ってもらいたいです。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 最初の日、ホストファミリーが何を話しているのか聞き取れず、落ち込みましたが、勇気を出して話しかけたら、優しく理解しようとしてくれました。最後の日には、ホストマザーが泣いて別れを悲しんでくれて、仲良くなれたと思いました。

目標②について 現地の小学校で折り紙と燕子カルタをしました。折り紙のことを知っている生徒も多く、とても喜ばれました。燕子カルタは燕の食べ物に興味をもっていたので、PRは成功したと思います。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

現地の学校に通ったことです。バディーやクラスメイトたちが優しく、とてもフレンドリーですぐに仲良くなれました。フランス語の授業に参加したときには、教科書を音読したら、クラスメイトから拍手をもらい、とてもうれしかったです。昼休みには、バディーや彼女の友達とトランプをして遊びました。日本やオーストラリアについてたくさん話しました。またいつか会いたいです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

将来また海外へ行って英語を勉強したいです。新潟県人会の方はワーキングホリデーでシンガポールに来たと言っていたので、そのような制度も調べたいです。英語をもっと勉強して、英語を生かせる仕事をしたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

はじめは緊張して話しかけられないかもしれないけど、勇気を出して積極的に話しかけてみてください。ホストファミリーや現地の人はとても優しいです。後悔のないようにがんばってください。



「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	田辺 陽香
-----	----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 燕市の良い所や特色などを現地の人々にPRするとともに、燕市のことを知ってもらう。

目標② オーストラリアの文化や歴史について学び、またできるだけ、ホストファミリーと仲良く話せるようになる。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 目標の1つ目は達成できたと思います。現地の高校生に燕市の伝統行事や有名な所をできるだけたくさん説明したところ、とても興味を示していました。

目標②について 目標の2つ目は達成できたと思います。最初は、どう話せばよいかわ迷いましたが、日が経つうちに、少しずつ慣れていくことができました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

最も思い出に残ったことは、ムーアバンクハイスクールでの活動です。そこで出来た友達と一緒に授業に参加して、友達と親しんだり、ホーリン先生の英語レッスンで、オーストラリア特有の動物やお金、よく食べられている食べ物などを学んだことが心に残り、とても良い思い出となりました。短い時間での思い出作りでした。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

これからは、英語を積極的に学び、できるだけたくさん単語を覚えて、英文を読んで理解できるように頑張っていきたいと思いました。またこれから英語への関心を高めることを心がけたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

できるだけ、自分の使える英語を最大限に使い、ホストファミリーなどと話せば、徐々に英語に慣れていけると思います。またコミュニケーションの大切にも気付くと思います。頑張ってください！！

「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	深海 由里衣
-----	-----------------	----	--------

1 海外派遣事業の親善大使として、目標を決めましょう。

目標①

現地の人に燕市の歴史、産業、文化などの燕市のよいところをたくさんPRする。

目標②

ホストファミリーと積極的に話して、コミュニケーションをとり、充実した2日間にする。

2 目標は達成できましたか？

目標①について しっかりとPRすることができました。燕市をPRする場所が3回あり、すべて大成功でした。また、現地校に通うバディ、ホストファミリーとも簡単に話すことができました。

目標②について 最初は緊張して話すことができなかった。伝えたいことが伝わらなかつたりもしましたが、辞書やスマホを使ってコミュニケーションをとり、楽しい2日間を過ごしました。とても貴重な経験となりました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

最も思い出に残っていることは、リチャード小学校での燕市のPRをしたことです。4つの教室をまわり、折り紙でつるを教えたり、つばめをつるをしました。英語でつるの説明をするのは大変でしたがとてもやりがいがありました。つばめをつるにはみんな本気でつるを楽しんでくれたので私たちも楽しめました。また、全校生徒の前でつばめをつるをしました。また、風物や生徒のみんなと遊びました。みんなをいじめるのはいいです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

もっと自分の英語力を高めたいと思いました。ホームステイでは、自分の伝えたいことがなかなか伝わらず悔しい思いをしました。スムーズに英語でコミュニケーションをとれるようになるために、積極的に英検等を受けて勉強に励みたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

おそらく、英語が伝わらなかつたり悔しい思いをするときがあると思います。私もそうでした。そんなときもあきらめずに辞書やスマホを使ってかわらずに楽しめたらいいです。いずれは、貴重な経験になり、最高の思い出になるからです。



「目標と成果」

行き先	オーストラリア（シンガポール）	氏名	明道 友佳
-----	-----------------	----	-------

1 海外派遣事業の親善大使として、目標を決めましょう。

- 目標① より多くの人に「燕市」を知ってもらおう。  
また、名前だけでなく 燕の産業や伝統の素晴らしさを知って  
もらうことです。
- 目標② ホストファミリーと過ごす中で、私が家族の一員として認め  
もらえるように お手伝いをしたり コミュニケーションを積極的に  
することです。

2 目標は達成できましたか？

- 目標①について 鋳造銅器、田んぼに囲まれた田舎の風景の写真を  
自分のバディやその友達、現地の学校で日本の事を学んで  
いる学生にも見せて説明し 燕市のことを紹介できました。
- 目標②について オーストラリアの今の季節は冬だと分かっていたけれど、  
最初に何を話すべきが分からなかったんで オーストラリアの季節を  
聞いたり、ホストファミリーのしているスポーツを教えてくださいました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ホームステイ初日、家に着いてからすぐに私はパワーを上げて荷物を  
出している途中で鼻血を出してしまいました。パニックになってしまい自分の  
ティッシュが見つからずとても困りました。そこで私は肩にあいたバ  
スタオルで鼻をおさえながら「マザー マザー」と呼び、状態  
を説明して たくさんのティッシュをもらい 一件落着きましたことです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

ALTの方と話す事の大切さを知ったので、積極的に話しかけたり、  
聞き取れるように努力していきたいです。また、英語のプロジェクトはたくさん  
あるので、色々なプロジェクトに参加して自分に自信をつけていきたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

第一印象が大事だと思うので、会ったすぐからでもたくさん話  
かけると良いと思います。また、写真を持っていって説明がし  
やすいし話が盛り上がりがあるのでオススメです。



「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	吉岡 梨
-----	----------------	----	------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 親善大使として燕市についてPRをし、現地のの人たちに燕市について興味を持ってもらうこと。またオーストラリアについての理解を深めること。

目標② ホストファミリーや現地校の人と積極的にコミュニケーションを取り、英語力を向上させること。

2 目標は達成できましたか？

目標①について PR活動はもちろん、ホストファミリーや現地校の人たちには燕市について話すことができたので達成できたと思います。またオーストラリアについてもたくさん聞くことができています。

目標②について 最初は相手の言っていることを聞き取ることが精一杯でしたが慣れてくると少しずつ言いたいことも言えるようになりました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

ムーアバングハイスクールでのバディとの休み時間やランチ、授業です。バディやバディの友達と楽しく会話をしながらランチを食べたり、お互いの学校について話すことができました。授業ではクラスの人だけでなく話を聞いてくれて、楽しくすごすことができていました。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

今回の海外派遣で異文化交流の楽しさを知りました。今後は留学生と積極的に交流をもつようにしたいと思っています。また留学についても考えてみたいと思っています。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

最初は緊張もありましたが、ホストファミリーやバディもやさしい人ばかりです。たくさん会話をして楽しい時間にしてください！！

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	粉川 芽子
-----	----------------	----	-------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 自分の町の自慢できるところを伝え、相手の国の自慢できるところを聞く。

目標② 今、自分が使える英語で現地の人とコミュニケーションをとり、帰ってきた時、英語を使うことが楽しいと思えるようにする。

2 目標は達成できましたか？

目標①について 達成できました。燕からのお土産で持っていたスフィンを渡す時に、燕市のことを紹介したら、ジニーについてもお話ししてくれました。

目標②について 英語を聞きとることに苦戦しました。しかし、自分のリスニング能力を上げたいという目標ができたので、英語の学習に前向きに取り組むことができそうです。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

現地の校の生徒と仲良くなれたことです。ランチタイムでは必ず私のところに来てくれたり、私のたどたどしい英語を一生懸命聞きとり、コミュニケーションをとってくれました。最終日には、メッセージカードとたくさんのお礼状を用意してくれました。本当に嬉しかったです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

今回、実際に海外に行き、英語を聞きとることの大変さに気づけました。だから、もっと積極的に英語に関わるように活動し、リスニング能力を上げたいと思います。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

私は英語が得意なわけではおそろせんが、ホームステイ先や学校で楽しく食話をすることができました。一番大切なのは「伝えよう」とする気持ちだと思います。真剣に聞いてくれます。

「目標と成果」

行き先	オーストラリア、シンガポール	氏名	本田 和
-----	----------------	----	------

1 海外派遣事業、親善大使としての目標を決めましょう。

目標① 燕市について一人でも多くの人に知ってもらい、行きたいと思われ  
るように詳しくPRし、少しでも燕市に貢献すること。

目標② 自分から進んでたくさんの人に話しかけ、ミニスターカードも使い、  
自分の英語スキルを上げること。

2 目標は達成できましたか？

目標①について プレゼンの時は、話す原稿の内容だけでなく、彼でその事について  
さらに詳しく説明することができました。また、ホストファミリーとの日常会話やプレゼン以外  
でも燕市をPRすることができました。

目標②について 質問された時に「Yes」「No」だけでなく、自分なりの英語を  
付け加えて答えることができました。また、研修の後半には、質問をもう一度  
聞き返すことは少なくなりました。

3 最も思い出に残ったことを書いてください。

私は、ホームステイ初日から最終日まで毎晩一緒に遊んだトランプが一番印象に残  
っています。また、私の中の精進ばいの英語でホストマザーに3つの新しいトランプゲームを教える  
ことができました。ちなみに、ホストマザーのお気に入りばい、「ババ抜き」と「セブン」です。  
また、私が一番嬉しかったことは、ホストマザーに「和は、何卒のホームステイの子の中で  
一番賑やかで元気。おかげでとても楽しい。」と言われたことです。

4 これから頑張りたいことや挑戦してみたいことを書いてください。

今回、ホームステイをいれて、次は自分が日本人の留学生を引き受けて、自分が  
よくしているように全カでおもてなしをしたいです。外国との交流をもっと深めると  
ともに、自分の英語スキルをさらに上げたいです。

5 海外派遣を希望する人へのアドバイスを書いてください。

質問されたら「Yes」「No」だけでなく、その後に一文、質問は知っている答えを  
返すことで会話が弾むと思います。どの方ともとても楽しいので自分からどんどん  
話しかけると充実した研修になります!!!

## 親善大使アンケート

派遣先	学年	性別
オーストラリア シドニー シンガポール	小学6年生1人 中学1年生2人 中学2年生3人 中学3年生6人	男 1人 女 11人

### Q1 海外派遣はどうでしたか？

①良かった 12人 ②まあまあ良かった 0人 ③あまり良くなかった 0人 ④悪かった 0人

#### ●その理由は？（具体的に）

- ・ とても楽しかったです。ホストファミリーもとても優しく不安なことなく過ごせました。
- ・ オーストラリアの人たちがとても優しくて、日本とは違う環境が刺激的でした。
- ・ 日本ではできないことがたくさんできました。
- ・ オーストラリアやシンガポールの文化や生活を実際に体感できました。
- ・ 観光もできて、ホストファミリーや現地校の生徒とともに仲良くなり、英語力が向上しました。
- ・ ホームステイが充実していました。いろいろな人々に会うことができました。
- ・ 現地校でバディやバディの友達とたくさん話をして交流することができました。
- ・ 同じ仲間と協力し、助け合いながら生活するのはとても楽しかったです。
- ・ 現地の友人ができ、燕市をたくさんPRすることができました。
- ・ 自分自身の英語力を発揮することができ、積極的に異文化触れ、とても良い機会になりました。

### Q2 日程はどうでしたか？

①きつかった 0人 ②ややきつかった 0人 ③やや楽だった 6人 ④楽だった 6人

#### ●体調や精神面で特につらいと感じたときはありましたか？あれば具体的に書いてください。（飛行機、英語、食事、日程など）

- ・ 食事が合いませんでした。（2人）
- ・ 食事の量が多くて大変でした。（2人）
- ・ 大きな荷物を持って東京駅等を歩くことが大変でした。
- ・ 帰国の予定がきつかったです。
- ・ ホームシックになりました。
- ・ 飛行機の揺れや、フライト時間がとても長く、辛く思いました。



羽田空港での出発前

### Q3 期間はどうか？

①長かった 0人 ②やや長かった 1人 ③ちょうどいい 5人 ④やや短かった 2人

⑤短かった 4人



**Q4 海外派遣の中で、良かった場所や活動は何ですか？「特に良かった」ことを◎に1つ、「良かった」ことを○に4つ以内で記入してください。また、「良くなかった」ことがあれば、△に3つ以内で記入してください。**

◎「特に良かったこと」

- ・ 現地のハイスクールへの通学（8人）
- ・ ホームステイ（5人）
- ・ 現地の小学校訪問（4人）
- ・ シンガポール新潟県人会との交流（2人）
- ・ オペラハウス
- ・ ホストファミリーと過ごした休日
- ・ 燕市のPRクイズ、つばめっ子カルタ
- ・ マーライオン
- ・ 燕市のPR活動（プレゼンテーション）

○「良かったこと」

- ・ オリンピック会場
- ・ シンガポール市内観光（2人）
- ・ 食事
- ・ 休日
- ・ フェアウェルパーティー
- ・ 英語の歌
- ・ 現地の生徒たちとクッキー作り
- ・ ハーバーブリッジ
- ・ ホテル

△「良くなかったこと」

- ・ 飛行機



シンガポール ラッフルズ卿像前で

**Q5 ホームステイの期間はどうか？**

①やや長かった 2人 ②ちょうどいい 5人 ③やや短かった 1人 ④短かった 4人

**Q6 ホームステイで良かったことを書いてください。また、困ったことがあれば、具体的に書いてください。また、困ったことを解決するために自分がしたり、事前に準備したりしておくべきことを具体的に書いてください。**

①良かったことは？

- ・ 家族が優しくった。
- ・ 自分専用のシャワールームがあった。
- ・ ベッドが大きかった。
- ・ 一人だけのホームステイではなかった。
- ・ 日本からのお土産を喜んでくれた。
- ・ 自分の英語で通じた。
- ・ 中国人の留学生もホームステイしていて友達になった。
- ・ 放課後や休日、ホストファミリーといろいろなところに出かけた
- ・ たくさんの場所に連れて行っていただき、いい経験ができた。
- ・ 自分の家族の写真を持って行き、紹介できた。
- ・ 海外で友人ができた。



現地校の様子

②困ったことは？

- 言いたいことが言えなかったことがあった。(1人)
- シャワー
- 思ったより寒かった
- 食事が口に合わなかった
- 食事の量が多くて断ることが難しかった
- 予定と違う人(留学生や親戚)がステイしていて驚いた。
- 洗濯のできる回数が少なかった。

③自分のしたことや事前の準備は？

- 日常会話を調べて、ノートに書いて準備した。
- 手伝いができた。
- お土産を袋に入れて準備した。
- オーストラリアの文化やマナーを調べた。
- もう少し会話表現を確認するなど、事前の学習をしておけばよかった。
- 家族の写真や日本の風景の写真を準備した。



校長先生からの修了証

**Q7 海外派遣で、とまどったことや不安に思ったこと、疑問に感じたことなどがあれば、具体的に書いてください。**

- トイレの使い方が違った。
- コンセントにスイッチが付いていて、最初使い方が分からなかった。
- ホームステイ先が学校から遠く、毎日間に合うか心配だった。
- 食事のスピードが速くてとまどった。

**Q8 来年へのアドバイス。**

- お小遣いは1~2万円です。
- 洗濯物を出すタイミングが分からなかったのが、最初に聞いておくの良いです。
- 防寒対策が必要です。
- 飛行機は楽な服装が良いです。
- カードは作る必要は無いと思います。
- 荷物が多くなるので圧縮袋は必須です。
- 毎日洗濯機が使えると思わないこと。旅行用の洗剤を持って行って、シャワーの時に洗うと良いです。
- シャワーの使い方をきちんと聞いておくことと良いです。
- 食事の好みをきちんと伝えることが大切です。
- 英語の教科書を音読すると自信が付きます。



シドニー オペラハウス前で



シンガポール マーライオン公園で





英語スピーチコンテストなどの選考を通過した市内小・中学生12人が、海外派遣親善大使としてオーストラリアのシドニーとシンガポールへ行ってきました。

8月14日から12日間の日程で、ホームステイや現地校での授業を体験。燕市の産業や観光などの魅力を発信する使命を果たし、無事に帰国しました。

大使たちの活動の様子を報告します！

●問合せ

学校教育課 指導係 ☎ 0256・77・8191

## オーストラリアとシンガポールで 国際交流を体験！

～ Jack&Betty プロジェクト海外派遣事業 2018 ～



モーニングティー(午前中の20分休み)に驚きました。家から持ってきたおやつを食べながら、パディー(仲間)たちとお話をしました。日本にもあればいいのに、と思いました。

吉田中学校3年 坂爪 彩華



新潟県人会の皆さんが発表の場を作ってくれ、シンガポールの方々に英語でPR活動をしました。緊張しましたが大成功でした。また、貴重なお話を聞くこともできました。

燕中等教育学校2年 深海 由里衣



現地の高校で英語を学び、現地の友達と一緒に昼食を食べました。ホストファミリーとも楽しく会話をして過ごし、たくさんの思い出ができました。

燕中等教育学校1年 田邊 陽香



滞在中に私たちは現地の先生から授業をしていただきました。日本語を学んでいる現地の学生とも交流したり、日本との違いが学べたりなど、とても楽しい時間でした。

燕中等教育学校3年 平澤 幸芽



現地でのプレゼンでは、親善大使として燕市についてしっかりと伝えることができました。特に小学校でのクイズは、たくさんの方が答えてくれてとても盛り上がりしました。

燕中等教育学校3年 吉岡 葉



現地校の先生・生徒と一緒に、オーストラリア伝統のお菓子「アンザック・クッキー」を作りました。協力しておいしく仕上げることができ、楽しい時間を過ごせました。

燕中等教育学校3年 粉川 芽子



現地の小学生に  
英語で燕市を紹介  
(シドニー)



つばめっ子かるたで  
コミュニケーション  
(シドニー)



#### シンガポール

東京 23 区 ほど  
の面積を持つ東  
南アジアの島国。  
さまざまな国籍の人々が住み、  
観光だけでなく、世界的な貿易  
や交通・金融の中心地でもある。  
「マレーライオン」の像はシン  
ボリック的存在。



#### シドニー

オーストラリア  
南東部にある南  
半球を代表する  
国際都市で、2000 年夏季五  
輪の開催地。温暖な気候で一年  
を通して過ごしやすい。海に  
臨む「オペラハウス」や「ハー  
バーブリッジ」が有名。



今回の海外派遣では、  
とてもたくさんの思い出  
ができました。現地  
校での体験は全てが驚  
きの連続で、現地の友  
達とコミュニケーション  
がとれた時は本当に  
うれしかったです。

吉田中学校 1 年 山田 悠泰



ホストファミリーと  
の休日が特に楽し  
かったです。公園へ散  
歩に連れて行っても  
らいました。そこには  
大きな池や滝があり、  
豊かな自然を感じる  
ことができました。

松長小学校 6 年 小嶋 悠真



私たちが通っていた  
学校でのフェアウェル  
パーティー（お別れ  
会）では、現地ででき  
た友達と楽しく過  
しました。仲良くなれ  
たので、別れる時がと  
ても寂しかったです。

小池中学校 2 年 塩原 美輝



ホストファミリーと  
のフェアウェルパー  
ティー（お別れ会）が  
印象に残っています。  
私たちがお礼に歌っ  
ている時は、笑顔で聴  
いてくれ、大きな拍手  
もいただきました。

燕中等教育学校 3 年 本田 和



現地の小学校で私た  
ちは 3 つに分かれ、全  
9 クラスで「つばめっ  
子かるた」や折り鶴を  
紹介しました。折り鶴  
は難しかったけど、全  
員が完成できてうれ  
しかったです。

燕中等教育学校 3 年 朗道 友佳



パディー（仲間）と一  
結に技術の授業を受  
けました。とてもにぎ  
やかで、みんな仲良く  
協力していました。日  
本の授業と違って自  
由な感じが新鮮で面白  
かったです。

燕北中学校 2 年 渡邊 世望菜



## 引率者報告

燕市立吉田中学校 教諭 春川千尋

私がこの研修に参加した理由は、自身の学生時代の留学経験を生かし、海外で研修を行う小・中学生のサポートがしたいという思いからです。また、研修を通して燕市について知るきっかけにもなると思いました。そして、教員としての新しい視点を得たいという思いもありました。

現地の学校で過ごす中で、日本との違いに驚きを感じる事が多くありました。9時から1時間目が始まり、午前中の授業の間にはリセスという20分間の休憩があります。生徒たちは、持ってきたお菓子や果物を食べたり、仲間とリラックスしながら過ごしていました。午後からは1時間授業を行い、15時には下校となります。生徒の生活の中で「学校」が占める割合が、日本に比べて少ないと感じました。授業中は、与えられた課題に自分で考えて取り組む様子が見られました。生徒のコミュニケーション力は高く、初めて会った親善大使に積極的に話しかけていました。また、一人一人の生徒が自立しているように感じました。

初めてのホームステイの経験からも多くのことを学びました。日本と同じような家族同士のやりとりもあれば、日本とは違う方法でのコミュニケーションも見られました。ホームステイ先の両親は、家族との時間をとても大切に考えており、毎日の夕食後は全員が集まって過ごしていました。ホストファザーやホストマザーとは、日本とオーストラリアの生活について話したり、大切にしている価値観などについても話し合ったりしました。ユーモアあふれるホストファザー、愛情深いホストマザーと過ごした時間からは、多くのことを考えさせられました。ホストファミリーとの出会いは自分自身のこれからの生き方に影響を与えるものになりました。

また、12名の親善大使の成長を近くで感じる事ができたことも嬉しいことでした。様々な学校から来た親善大使でしたが、同じ経験を一緒に行う中で、徐々に自分らしさを出せるようになり、良い方向に関係が変化していきました。面白い出来事にみんなで笑う姿、一生懸命に自分の気持ちを伝えようとする姿、燕市について堂々と紹介する姿などが印象に残っています。また、2日間をホストファミリーと過ごした週明けの一人一人の表情からは、大きな自信を感じました。生き生きとした表情で体験を語る姿に、子どもたちのもつ可能性の大きさを感じました。

この研修を通して、新しい価値観に触れることの楽しさを改めて実感できました。そしてコミュニケーションツールとしての英語の大切さも感じました。英語を習得し、お互いの考え方について語り合うことができた経験は何にも代えがたいものとなりました。今後も英語教師としてできることを考え続けていきたいと思えます。





## 引率者報告

### 燕市教育委員会学校教育課 指導主事 廣川 統

Jack & Betty プロジェクト親善大使海外派遣事業は今年度で6年目となりました。親善大使の12名は、年間25回に及ぶJ & B教室に参加している、または参加したことがある児童生徒が多く、全員が英語スピーチコンテストに挑戦して親善大使に選ばれました。そして、1人1人が親善大使としての自覚をもって、海外で燕市を熱心にPRする姿を見て、感心するとともに燕市が誇るJ & Bプロジェクトの意義を実感することができました。

訪問先は、オーストラリアのシドニーとシンガポールでした。どちらにも共通する点は、世界各国から移住してきた人々が共存共栄しているということです。シドニーで親善大使がホームステイをしたご家庭のほとんどは、移住者のご家庭で、英語以外に母語をもっている方が多かったです。例えば、私がホームステイをしたご家庭は、イギリスから移住してきた夫と、フィリピン出身の奥さんご夫婦のご家庭で、そこに大学進学を目指して留学してきたベトナム人高校生が2名長期ステイを、そして中国人の女性が短期ステイをしていました。5か国のそれぞれ特徴のある英語でしたが、お互いを理解しようと楽しくコミュニケーションをすることができました。

親善大使が通った現地の高校も同じく、各国からの移住者の子どもたちが集まっていました。この高校は我々のような日本人のグループを受け入れることは初めてのことでした。この高校も含めてオーストラリアにはアジア諸国からの留学生が多く、特に中国、インド、韓国、ベトナムからの留学生が近年どんどん増えているとのことでした。この話を聞いた多くの親善大使が、「自分もこの高校に留学がしたい」と夢を膨らませていました。

シンガポールでは、新潟県人会の皆様と交流をしました。参加者には熊本県出身のシンガポール日本人学校日本語補習校の校長先生とその奥さんなど、新潟県人会の皆様と親しい他県出身の方からもおいでいただきました。親善大使は、シンガポールの皆様に積極的に質問をし、様々なお仕事や生き方、価値観にふれ、感銘するとともに視野を大きく広げることができました。

親善大使は、送り出してくれた燕の皆様や家族に、また、受け入れてくれた現地の皆様に対して、様々な場面で心から感謝の気持ちを口々にしていました。その気持ちを忘れずに、今後は親善大使としての経験を生かしてさらに多くのことに挑戦し、燕市の未来を担うリーダーとして活躍することを期待しています。



## 【燕市姉妹都市子ども交流事業】

燕市姉妹都市子ども交流事業日程

---

月	日	曜日	時間	日程
7	18	水	15:55	ダンディ村使節団来日（成田空港着）
			21:27	燕三条駅 到着
			21:30	ホストファミリーとの対面【燕三条駅改札口前】
7	19	木	8:30	燕市役所集合
			9:10～	小学校訪問【松長小学校 児童との交流】
			11:50～	中学校訪問【吉田中学校】
				生徒との交流、授業見学他
			17:15	市役所解散
7	20	金	8:30	燕市役所集合
			10:15～10:50	日本語レッスンほか
			11:00～12:00	燕市長表敬訪問【燕市役所】
				昼食【スカラウンジでアスリート弁当】
			13:30～14:00	キャンドル作り体験【つばめキャンドル】
			14:15～15:30	FM/ラヂオはーと「パラダイスジャム」の収録(インタビュー) 燕交通公園
			16:30～17:20	新潟ダイヤモンド電子(株) 工場見学
			18:00～	新潟ダイヤモンド電子(株)主催 歓迎会
				歓迎会終了後 現地解散
7	21	土	終日	ホストファミリーと同行
7	22	日		
7	23	月	8:30	燕市役所集合
			9:00～10:45	書道・仏道体験【国上山本覚院】
			11:15～11:50	燕三条地場産業振興センター 見学
			12:00～13:30	国際交流協会表敬訪問【兼昼食会】
			13:45～14:45	タンブラー磨き体験【燕市磨き屋一番館】
			15:30～	燕中等教育学校訪問【グローバル部と交流】
			17:15	燕市役所解散

月	日	曜日	時間	日程
---	---	----	----	----

7	24	火	8:30	燕市役所集合
			9:00～	大河津資料館 見学
			10:15～	長善館資料館 見学
			11:30～	ゆかたの着付け体験【着楽塾(元気磨き隊)】 手作り日本食体験【スマイル食 LOVE】 (会場: 吉田保健センター)
			14:00～	消防署見学・体験
			17:15	燕市役所解散
7	25	水	8:30	燕市役所集合
			9:30～10:30	弥彦山、国上山周辺散策
			11:30～14:00	道の駅くがみ(手作りピザ体験)【昼食】
			15:00～16:00	Jack & Betty 教室の児童生徒と交流会 (会場: 中央公民館)
			17:30	燕市役所解散
7	26	木	8:30	燕市役所集合
			9:30～11:30	新潟県立歴史博物館を見学 (勾玉づくり体験他)
			11:45～15:00	リバーサイド千秋にて買い物【昼食】
			16:00	お別れ会会場準備
			18:00～20:00	お別れ会 (会場: 中央公民館)
7	27	金	12:31	燕三条駅発 (上越新幹線⇒東京)
			14:28	東京駅着
			17:45	成田空港発 (ユナイテッド航空シカゴ行 UA0882 便) 帰国



タンブラー磨きの技術を見学  
(燕市磨き屋一番館)

Jack&Betty 教室の児童生徒と交流  
(吉田勤労青少年ホーム)



## 【ホストファミリー活動報告】

オードリー・ベネットさん    ホスト・ファミリー  
北澤 春花さん

【活動内容】

- ・新潟せんべい王国（せんべい作り）
- ・万代ふるさと村（買い物）
- ・マリンピア日本海（水族館）、海水浴
- ・遊び（紙風船、ゲーム）

【感想】

すごく楽しかった10日間でした。最初はとまどうことも多く不安でしたが、実際にオードリーに会ってみたら、とても明るく楽しい女の子であったので、すぐに打ちとけることができ良かったと思います。この体験により、話すことがうまく出来なくても楽しく交流ができることを知りました。

いつの日か、ダンディ村に行きたいと思います。



【足湯に入りました】



【自宅で風船遊び】

【ホストファミリー活動報告】



## マッケンズイー・ヘインズさん    ホスト・ファミリー 渡邊 隆さん

### 【活動内容】

- ・燕北中学校 女子バレーボール部活見学      ・弥彦灯籠まつり花火見物
- ・買い物、自宅で花火、紙風船遊び、近所を散歩

### 【感想】

事前のメールでの自己紹介等でお互いを確認し、色々な事を準備して、家族全員で一緒に楽しい時間を過ごそうと計画していましたが、受入れ初日より留学生の体調不良がつづき、予定していた活動が出来ませんでした。

体調不良時の食事・文化・言葉の壁等で不安な場面がありましたが、学校教育課スタッフ皆様のフォローのお陰で帰国時には元気を取り戻す事ができました。ホストファミリー受入れで急におとずれた、私たち家族がグローバル化？に触れるチャンス、家族のなかでまともに英会話をできる者が一人もないという状況でしたが、翻訳アプリやジェスチャーで、何とかコミュニケーションを取り体調に配慮し、短い時間でしたが楽しい時間を過ごすことが出来ました。

初めてのホストファミリー受入れで、異文化が家族に入ることは良い面と苦勞する面と両面あると思いますが、家族の絆を深める良い機会であり、普段気づかない大事なことを体験した10日間となりました。

様々な事がありましたが、ホストファミリー受入れをやって良かったと思います。機会があれば、またホストファミリー受入れをやりたいと思いました。



【夏の思い出】



【welcome Tsubame】

### 【ホストファミリー活動報告】

## マディソン・ラヴォーイさん    ホスト・ファミリー 小林 勝文さん

### 【活動内容】

- ・「しろね大風と歴史の館」見学      ・飛燕夏まつり燕ばやし大会に参加
- ・「回転寿司」で食事      ・ショッピング
- ・遊び（花火、おりがみ、カードゲーム他）      ・笹だんご作り

### 【感想】

最初はお互いに緊張気味の子供たちでしたが、マディさんができるだけ一緒にいる時間を作るようにしてくれたので、自然と距離が縮まったようです。いつもは一番シャイの3歳児が、自分から遊びに誘っていて驚きました。小さい子には言葉の壁はないようです。

英語が得意ではない子供たちですが、辞書を片手にカタコトの英語で話そうとがんばっている姿に感心しました。歓迎会が終わった日の夜から、お互いに吹っ切れたようで、交流する場面が増えていきました。あまり干渉せず、自分たちのペースを崩さないようにすることを心がけ、ある程度のことは子供たちに任せることができたので、私たちも楽しむことができました。若者同士うまくやっている様子で、食べるものも活動も何でも積極的に嬉しく感じました。

何を食べてもらおうか、どこに行こうか、事前に考えることも楽しかったです。近くにも行く機会がなかった、白根の凧づくりは、こちらの子供たちも一緒に楽しむことができました。

日本にいながらの国際交流を通して、「燕・新潟・日本の良さ」を改めて感じ、心に残る思い出がたくさんできました。今度は日本からダンディ村に会いに行ってみたいと思いました。



【自宅で食事】



【飛燕夏まつり】

【ホストファミリー活動報告】



## リーアム・ブレスラーさん    ホスト・ファミリー 山崎 修司さん

### 【活動内容】

- ・家族でバーベキュー、スイカ割り、花火、ゲーム
- ・飛燕夏まつり、民謡ながしに参加      ・弥彦灯籠まつり花火見学
- ・弥彦神社大鳥居を見学    ・せんべい焼き体験

### 【感想】

基本的に、まじめで日本の文化を勉強する意欲の強い生徒が来燕したと思います。彼の生活・自然・文化・食事について、自国には無いものに対し、たくさんの興味を持ち、真剣に取り組んでいました。日本の文化に触れあえたことや計画したイベントも良かったようで、たくさん学ぶことができたと感じているようでした。

幸い我が家には英語が話せる人間が多数いたので良かったが、実際、受け入れ側が英語対応できない環境で生活することは厳しいと感じました。

ただし、子供同士では、言葉でのコミュニケーションがかなり不足していても、言葉の壁を越えて楽しんでいた姿が印象的でありました。



【家族でパーティ】



【浴衣を着て夏まつりへ】



【海辺にて】

### 【ホストファミリー活動報告】

ステファニー・ホーツさん    ホスト・ファミリー  
遠藤 直子さん

【活動内容】

- ・弥彦神社、足湯体験、弥彦山頂へのドライブ    ・マリニピア日本海（水族館）
- ・海岸で釣り    ・弥彦まつりや花火鑑賞    ・田んぼアートの見学
- ・ショッピングなど

【感想】

夫婦二人住まいなので果たして間が持つのかと心配しましたが、食事中や夕食後に様々なことについて楽しくお話ができました。ゆっくりシンプルな英語を心掛けておられたようで何とか意思疎通ができ、私たちの英語も少しは上達したような気がします。

引率で来られているので「夜は9時過ぎには部屋に戻ってもいいですよ」と声をかけるようにしましたが、10時過ぎまで相手をしてくださることもありました。また、どこに案内しても、いろいろなことに興味を持っていたのが印象的でした。

ステファニーさんは、礼儀正しく、控えめな生徒思いの素敵な先生で、国は違っても、生徒と先生の関係は共通点が多いと感じました。

ホームステイの期間、食が細いので健康面を心配しましたが、体調を崩すことなく、無事に10日間を過ごされ、安心できました。



【弥彦山頂へのドライブ】



【草木に囲まれて…】

## ダンディ村からの感謝のメッセージ

ダンディ使節団の生徒は、夏休みが終わり、学校生活に戻りました。4人の生徒とステファニー先生は、燕市で夏休みを過ごし、素晴らしい思い出を作ることができました。

彼らにおもてなしをしていただき、ありがとうございます。この姉妹都市交流事業は、燕市とダンディ村の児童生徒が交流をしたり、地域を訪れたりする、素晴らしいプログラムです。このプログラムをとおして築いた異文化理解や友好関係は、彼らの人生を豊かなものにするでしょう。

添付した写真は、ダンディ村教育会議の時に撮ったものです。一緒に写っているのは、教育長であるエドワード・マヌスザックさんと、ダンディ村教育課の職員です。

使節団の生徒たちが燕市の訪問報告を聴いて、職員一同、とても喜んでおりました。

使節団の生徒たちは、とても素晴らしい思い出をつくることができました。

多くの皆さまが、使節団の生徒たちのために、プログラムを計画し、遂行してくださったお力に、とても感謝しています。次は、来年、2019年7月にダンディ村で燕市の生徒と会えるのを楽しみにしています。

感謝を込めて…



Dundee students are back to school now. Four students and Ms. Stephanie enjoyed a great memory to visit Tsubame City during the summer vacation.

Thank you for your kind hospitality for them. It is a wonderful program to have Tsubame and Dundee students to visit our countries and our communities. They can learn about the culture of different countries plus they can make new friendships that might continue for the rest of their lives.

Attached is a photo of the Dundee Schools Board of Education meeting when the Dundee delegation was honored by the Dundee School Superintendent Edward Manuszak and members of the Board of Education. Everyone was very pleased about the results of the visit to Japan for these students.

Members of the delegation were able to make a great memory. Please say “thank you” to all the people who took care of the members of Dundee delegation from us for their hard work and



## ダンディ使節団体験活動協力者のみなさま

書道体験 澁谷隆阿 様 (国上山 本覚院住職)

猛暑の中、今年もダンディ村の子どもが4人、我が山寺にやってきました。今回もお習字と座禅体験をしてもらいました。「平和」の二文字を書いてもらいましたが、ピースは世界の合言葉。

毎回同じで、筆順は何度教えても呑み込めずデタラメですが、厳しく指摘はいたしません。片言の英語で通じるはずもないからです。

ダンディ使節団のみなさんの屈託のない笑顔が印象的でした。太鼓や鐘の音に興味津々。

異文化に触れ、思い出深い日本の旅になったことでしょう。

次回も楽しみです。

【国上山本覚院】



着楽塾 (元気磨き隊) の皆様

スマイル食「LOVE」の皆様

ダンディ村使節団のみなさんにとって初めての「ゆかたの着付け」を体験しました。また、着付けのあとは日本食をいただきました。美味しくて、みんなで自然と笑顔になりました。

最初は戸惑いもありましたが、日本文化に触れながら、私たちも楽しい時間を過ごすことができました。



【日本食に興味津々の様子】



【着楽塾 (元気磨き隊) で「ゆかたの着付け」】

